

## 4. 就職活動時期

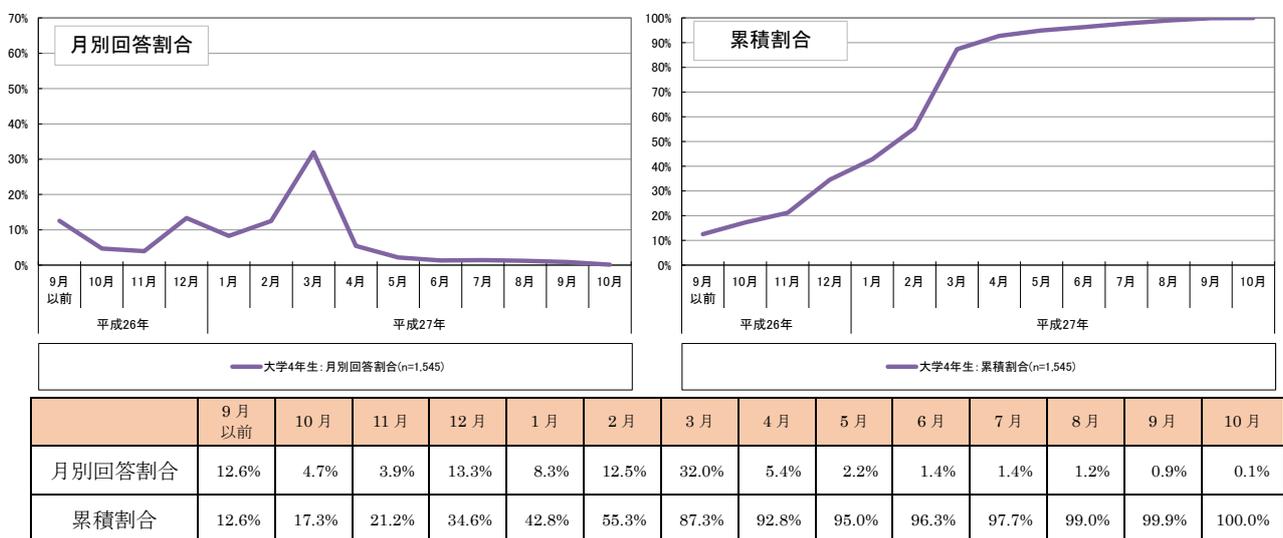
### (1) 業界や企業に関する分析を開始した時期

#### ① 業界や企業に関する分析を開始した時期の月別・累積割合

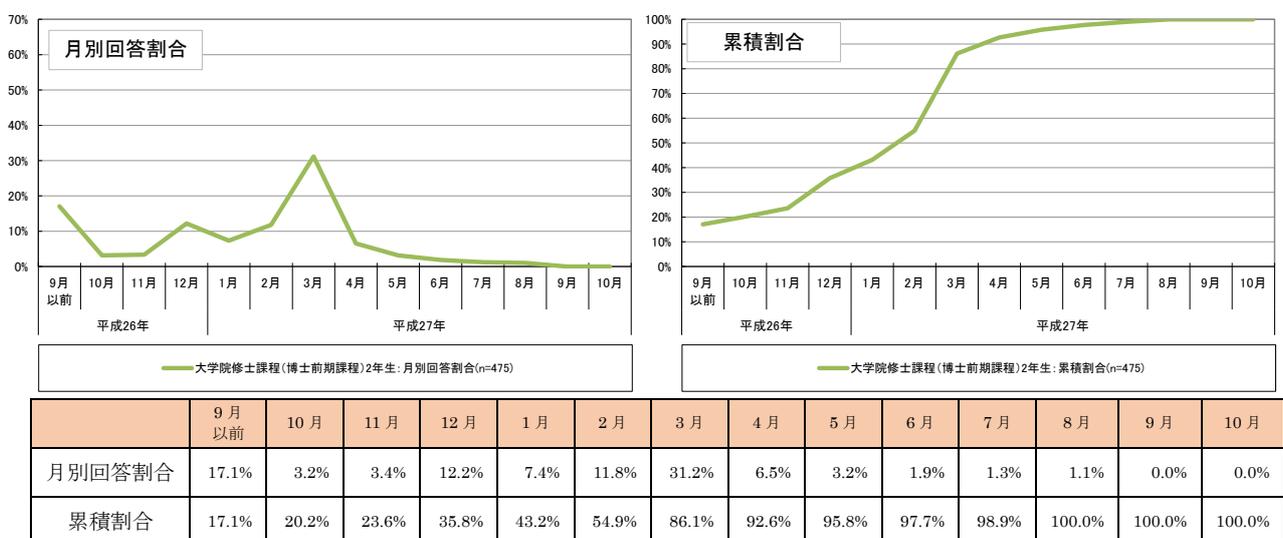
就職活動を行ったと回答した大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生について、いつごろから業界や企業に関する分析を開始したかをたずねたところ、ともに、「平成27年3月」との回答割合が約3割（各32.0%、31.2%）と、最も高くなっている<sup>16</sup>（図表4-1-1、図表4-1-2）。

また、平成27年3月よりも前から開始しているとの回答も多くなっており、累積割合をみると、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、半数以上（各55.3%、54.9%）が平成27年2月以前に業界や企業に関する分析を開始したとの回答となっている。

図表 4-1-1 大学4年生、業界や企業に関する分析を開始した時期



図表 4-1-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、業界や企業に関する分析を開始した時期



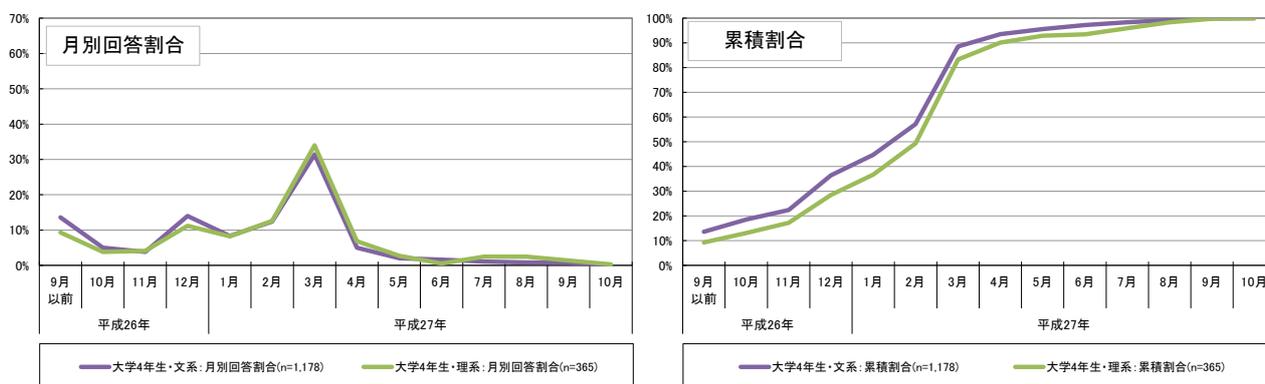
<sup>16</sup> 業界や企業に関する分析について「特段行わなかったと回答した者（大学4年生：71件、大学院修士課程（博士前期課程）2年生：30件）は、ここでは集計の対象外とした。

## ②文系・理系別、業界や企業に関する分析を開始した時期

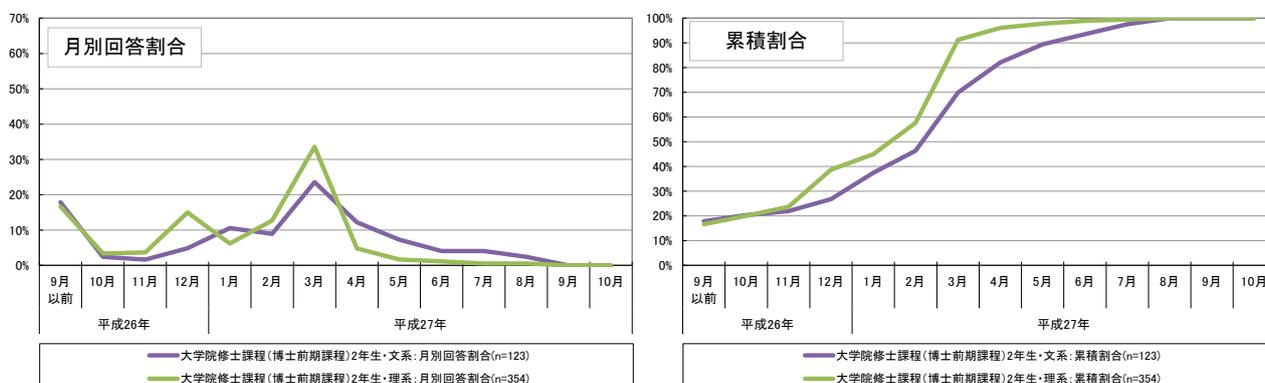
業界や企業に関する分析を開始した時期に関して文系・理系別にみると、大学4年生については文系の学生のほうが理系の学生に比べて開始した時期が早かった者の割合が若干高くなっている（図表4-1-3）。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、文系・理系の回答状況の違いが大きくなっており、文系・理系ともに「平成27年3月」の回答割合が最も高くなっている点は共通しているが、文系の学生では理系の学生に比べて開始したのがより遅い時期であった者の割合が高くなっている（図表4-1-4）。

図表 4-1-3 大学4年生の文系・理系別、業界や企業に関する分析を開始した時期



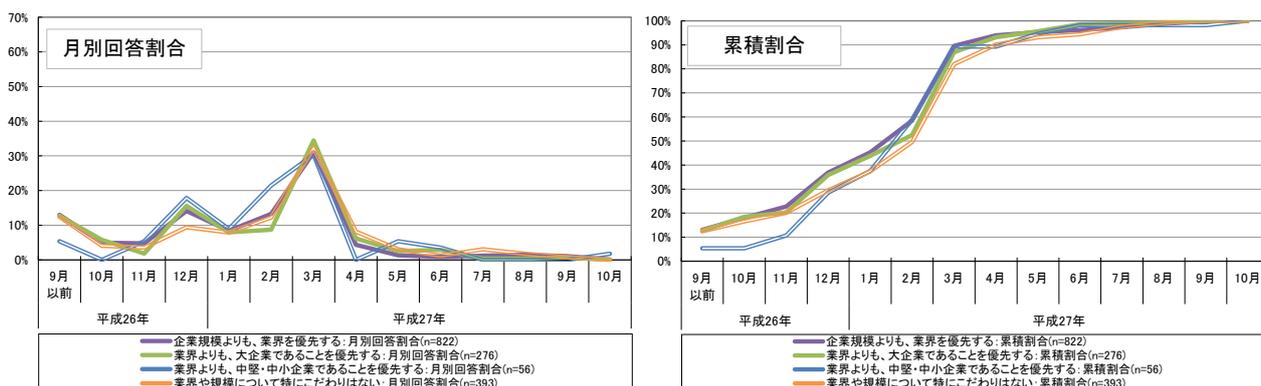
図表 4-1-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、業界や企業に関する分析を開始した時期



### ③大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、業界や企業に関する分析を開始した時期

大学4年生に関して、就職先の業界や企業規模の考え方別に、業界や企業に関する分析を開始した時期についてみると<sup>17</sup>、月別では「平成27年3月」の割合が最も高いのは共通しているが、累積割合に関して、「企業規模よりも、業界を優先する」と回答した者や、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者のほうが、その他の者と比較して、平成27年1月以前に業界や企業に関する分析を開始していた割合が若干高くなっている（図表4-1-5）。

図表4-1-5 大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、業界や企業に関する分析を開始した時期

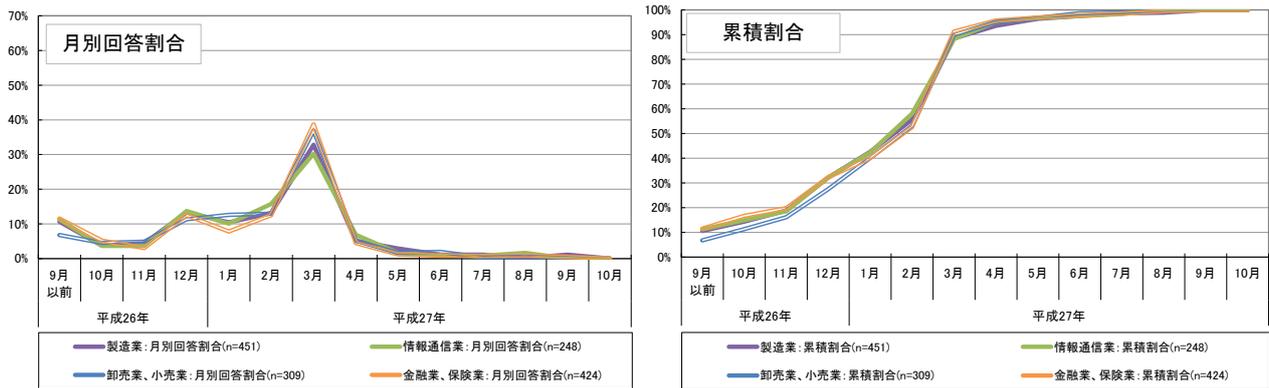


<sup>17</sup> 就職先の業界や企業規模の考え方に関して、「業界よりも、ベンチャー企業であることを優先する」と回答した者については、集計対象の度数が非常に少ないことから、ここでは集計の対象外とした。また、大学院修士課程（博士前期課程）2年生についても、集計対象の度数が少なくなってしまう分類があったことから、大学4年生についてのみ集計を行った。なお、別途集計を行ったところ、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者では、内々定先・就職予定先の企業規模（従業員数）が比較的大きく、他方で、「業界よりも、中堅・中小企業であることを優先する」と回答した者では、内々定先・就職予定先の企業規模（従業員数）が比較的小さい傾向があることが確認された。業界や企業規模に関する考え方について、就職活動に臨む際にそのように意識していたのか、あるいは、結果としての内々定先・就職予定先の企業規模（従業員数）に合わせて回答されたのかは厳密には判別できないが、この設問の回答には就職活動を行った企業群の違い等が反映されているのではないかと考え、集計を行った。なお、以下、「企業説明会やセミナー等に参加した時期」、「エントリーシートを提出した時期」、「採用面接の実施時期」に関しても同様に集計を行った。

④大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、業界や企業に関する分析を開始した時期

大学4年生に関して、志望していた（希望している）就職先の業界別に、業界や企業に関する分析を開始した時期についてみた場合<sup>18</sup>、「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業界に関して、志望業界別の違いはそれほど大きく見られない（図表4-1-6）。

図表4-1-6 大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、業界や企業に関する分析を開始した時期

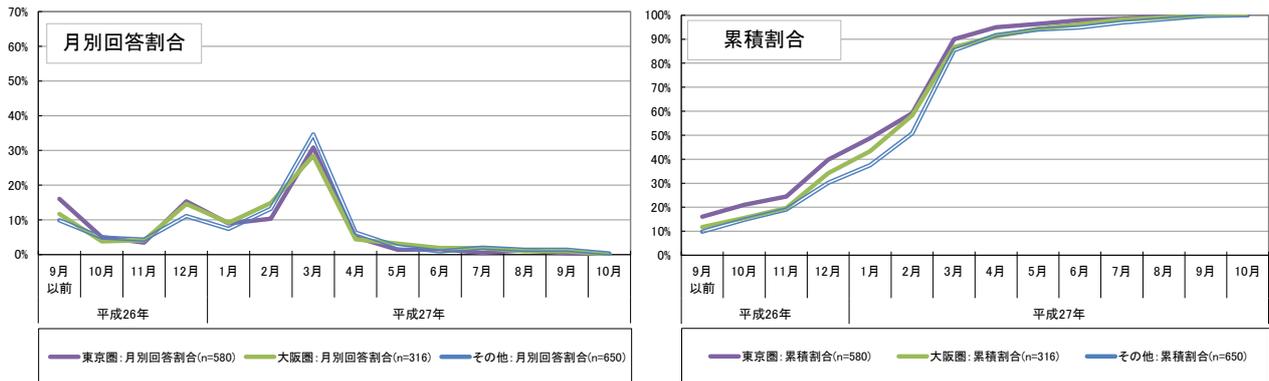


<sup>18</sup> 大学4年生に関して、複数回答による設問で回答割合が比較的高かった（回答件数が比較的多かった）「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業種について集計した。なお、複数回答による設問に基づく分類であるため、例えば、「製造業」と「情報通信業」の両方を志望していた学生がいた場合に、その者は両方の分類の集計に含まれている点には留意されたい。

⑤大学4年生の大学の所在地域別、業界や企業に関する分析を開始した時期

大学4年生に関して、大学の所在地域別に、業界や企業に関する分析を開始した時期についてみると、月別では「平成27年3月」の割合が最も高いのは共通しているが、累積割合に関して、「東京圏」の学生では比較的早い時期に業界や企業に関する分析を開始していた者の割合が若干高くなっている（図表4-1-7）。

図表 4-1-7 大学4年生の大学の所在地域別、業界や企業に関する分析を開始した時期



## (2) 企業説明会やセミナー等の参加状況

### ①企業説明会やセミナー等に参加した時期の月別・累積割合

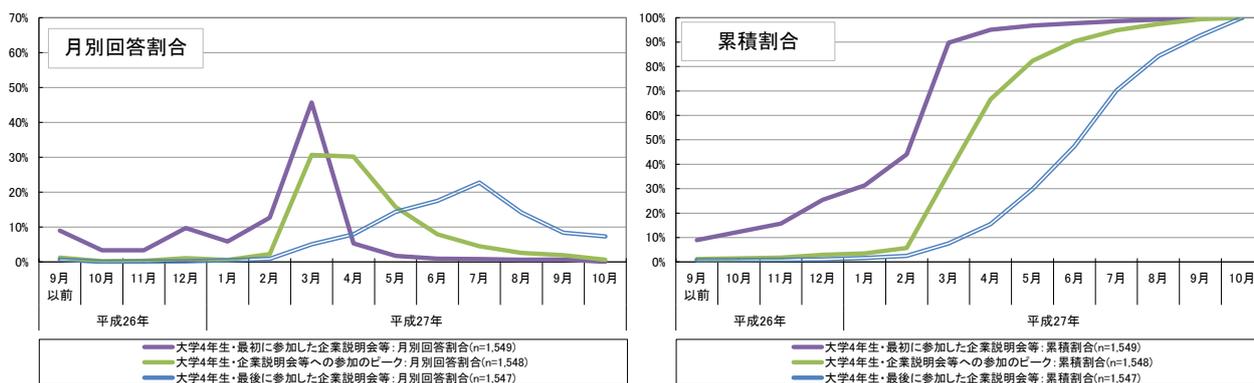
企業説明会やセミナー等について、「最初に参加した時期」「参加のピーク」「最後に参加した時期」をそれぞれたずねた<sup>19</sup>。

「最初に参加した時期」については、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「平成27年3月」の回答割合が高くなっている（各45.7%、51.4%）（図表4-2-1、図表4-2-2）。なお、累積割合では、大学4年生の44.0%、大学院修士課程（博士前期課程）2年生の35.9%は平成27年2月以前に参加したことがあると回答している。

「参加のピーク」については、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに「平成27年3月」「平成27年4月」の回答割合がそれぞれ3割以上と高くなっている。

「最後に参加した時期」について、大学4年生では「平成27年7月」の割合が22.8%と最も高く、次いで「平成27年6月」「平成27年5月」の順で高くなっている。大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、「平成27年5月」「平成27年6月」がそれぞれ20.5%、20.0%と比較的高く、次いで「平成27年7月」の割合が高くなっている。

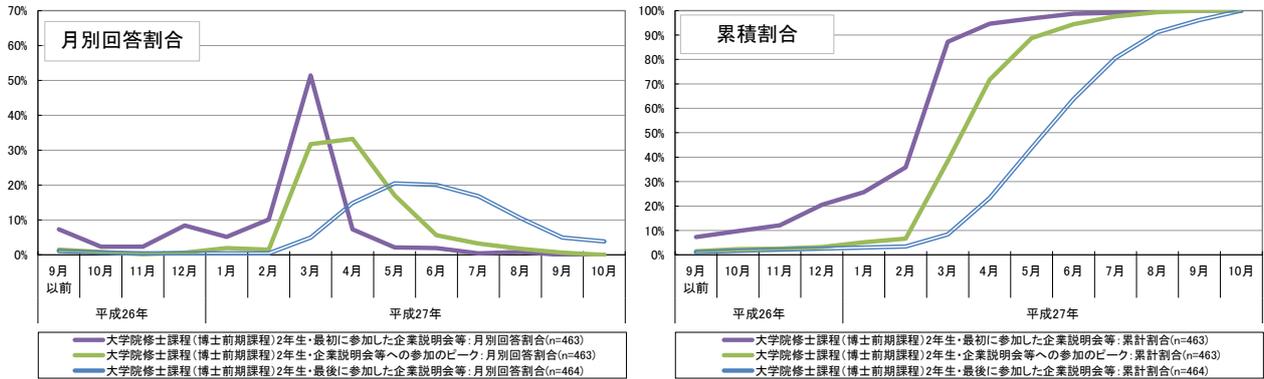
図表 4-2-1 大学4年生、企業説明会やセミナー等の参加時期



参加の時期	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
<b>最初の参加</b>	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	9.0%	3.4%	3.4%	9.7%	5.9%	12.7%	45.7%	5.3%	1.7%	1.0%	0.8%	0.6%	0.7%	0.1%
累積割合	9.0%	12.3%	15.7%	25.4%	31.3%	44.0%	89.7%	95.0%	96.8%	97.7%	98.6%	99.2%	99.9%	100.0%
<b>参加のピーク</b>	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.2%	0.3%	0.3%	1.1%	0.6%	2.3%	30.7%	30.2%	15.8%	7.9%	4.5%	2.6%	1.9%	0.6%
累積割合	1.2%	1.5%	1.8%	2.9%	3.5%	5.7%	36.4%	66.6%	82.4%	90.3%	94.8%	97.4%	99.4%	100.0%
<b>最後の参加</b>	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.7%	0.1%	0.1%	0.2%	0.5%	0.9%	5.0%	8.0%	14.4%	17.5%	22.8%	14.2%	8.4%	7.3%
累積割合	0.7%	0.8%	0.9%	1.1%	1.6%	2.5%	7.6%	15.5%	29.9%	47.4%	70.1%	84.3%	92.7%	100.0%

<sup>19</sup> 企業説明会やセミナー等に「特段参加しなかった」と回答した者（大学4年生：66件、大学院修士課程（博士前期課程）2年生：42件）は、ここでは集計の対象外とした。

図表 4-2-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、企業説明会やセミナー等の参加時期



参加時期	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
最初の参加	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	7.3%	2.4%	2.4%	8.4%	5.2%	10.2%	51.4%	7.3%	2.2%	1.9%	0.4%	0.9%	0.0%	0.0%
累積割合	7.3%	9.7%	12.1%	20.5%	25.7%	35.9%	87.3%	94.6%	96.8%	98.7%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%
参加のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.5%	0.9%	0.2%	0.6%	1.9%	1.5%	31.7%	33.3%	17.1%	5.6%	3.2%	1.7%	0.6%	0.0%
累積割合	1.5%	2.4%	2.6%	3.2%	5.2%	6.7%	38.4%	71.7%	88.8%	94.4%	97.6%	99.4%	100.0%	100.0%
最後の参加	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.1%	0.6%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	5.0%	14.9%	20.5%	20.0%	16.8%	10.6%	5.0%	3.9%
累積割合	1.1%	1.7%	2.2%	2.6%	3.0%	3.4%	8.4%	23.3%	43.8%	63.8%	80.6%	91.2%	96.1%	100.0%

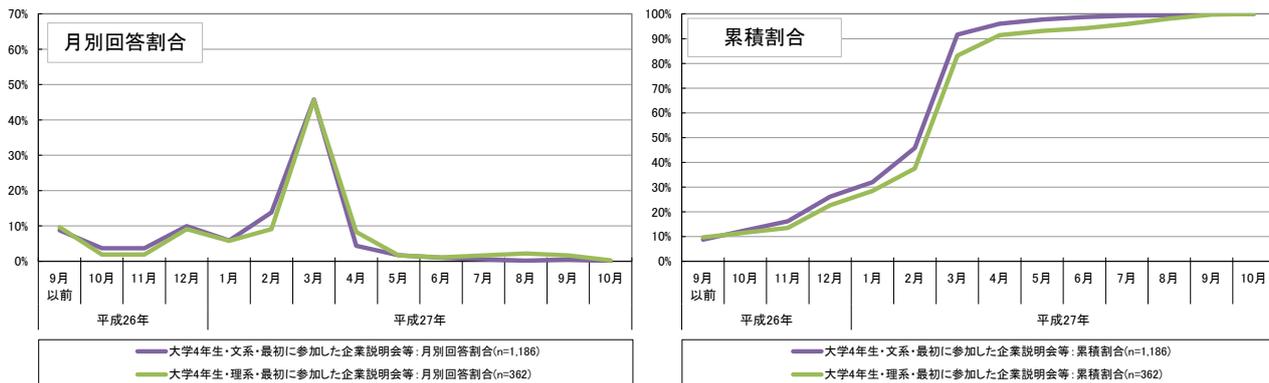
## ②文系・理系別、企業説明会やセミナー等に参加した時期

企業説明会やセミナー等の参加時期について文系・理系別にみると、大学4年生に関して、文系の学生と理系の学生とで「最後に参加した時期」の回答状況に若干の違いが見られる（図表 4-2-3）。

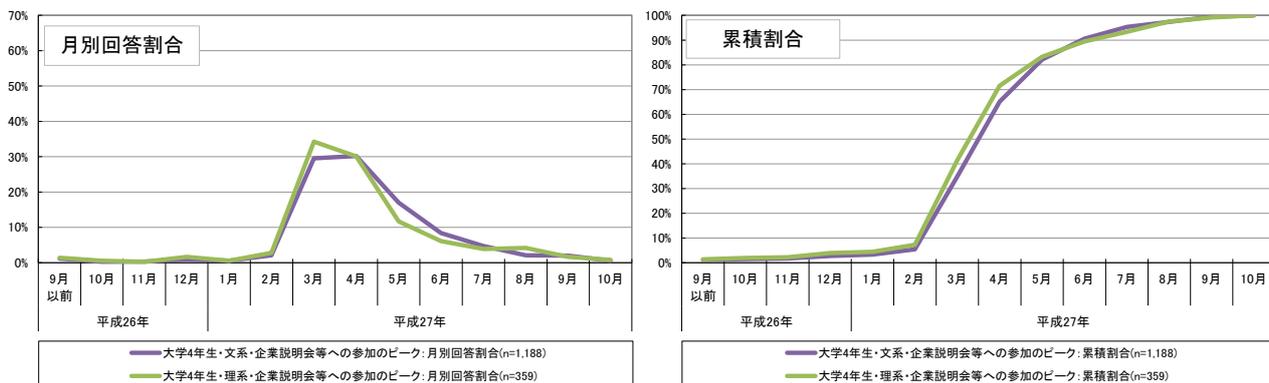
また、大学院修士課程（博士前期課程）2年生について、文系の学生では理系の学生に比べて参加時期がより分散している状況にあることがうかがえる（図表 4-2-4）。

図表 4-2-3 大学4年生の文系・理系別、企業説明会やセミナー等の参加時期

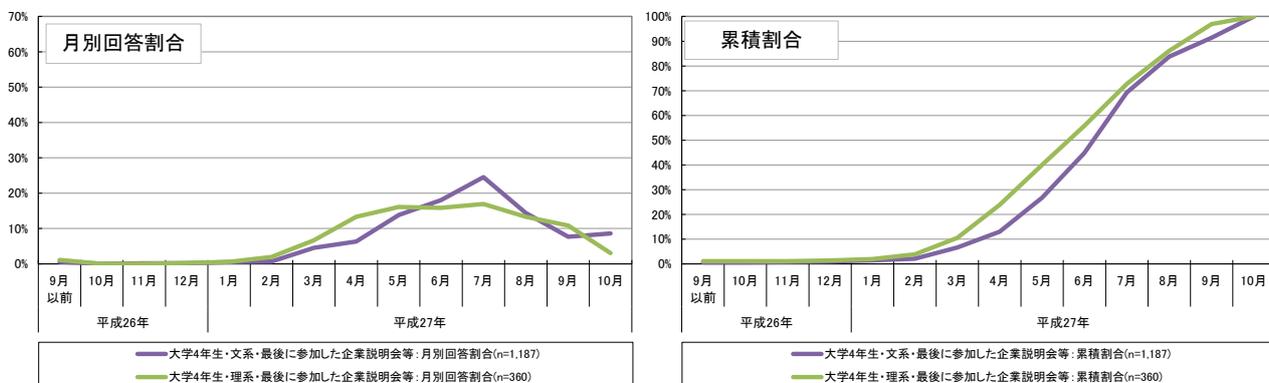
### <最初に参加した時期>



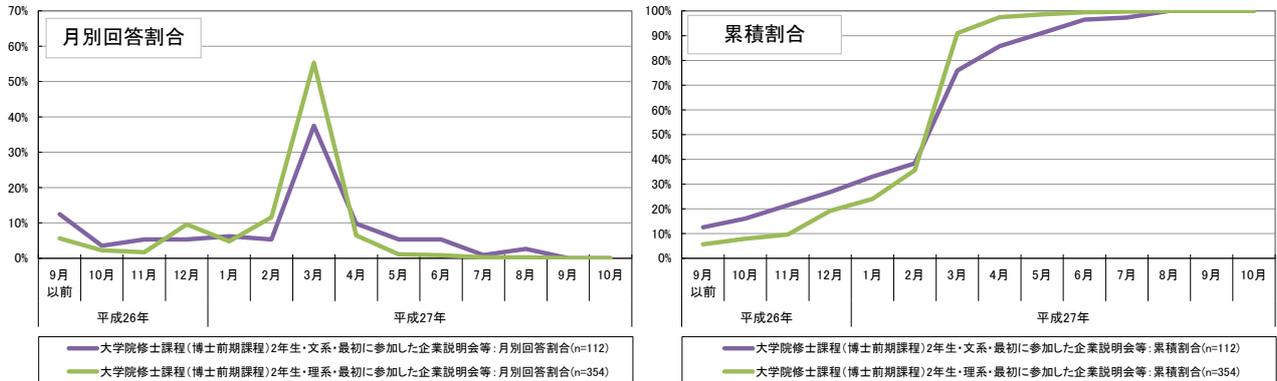
### <参加のピーク>



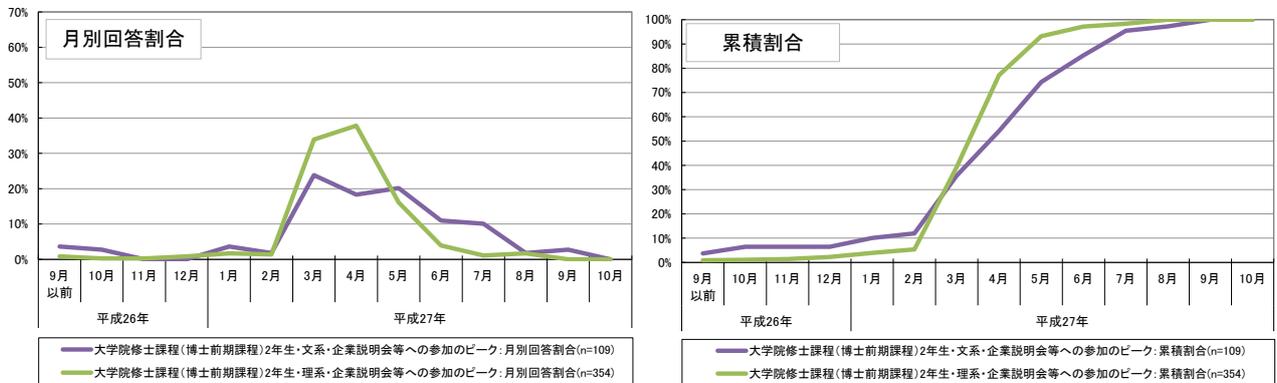
### <最後に参加した時期>



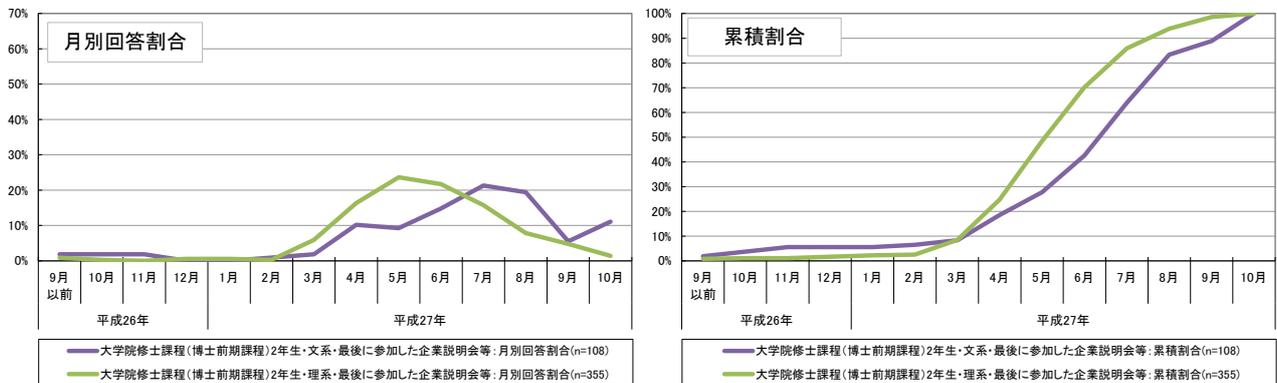
図表 4-2-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、  
企業説明会やセミナー等の参加時期  
＜最初に参加した時期＞



＜参加のピーク＞



＜最後に参加した時期＞

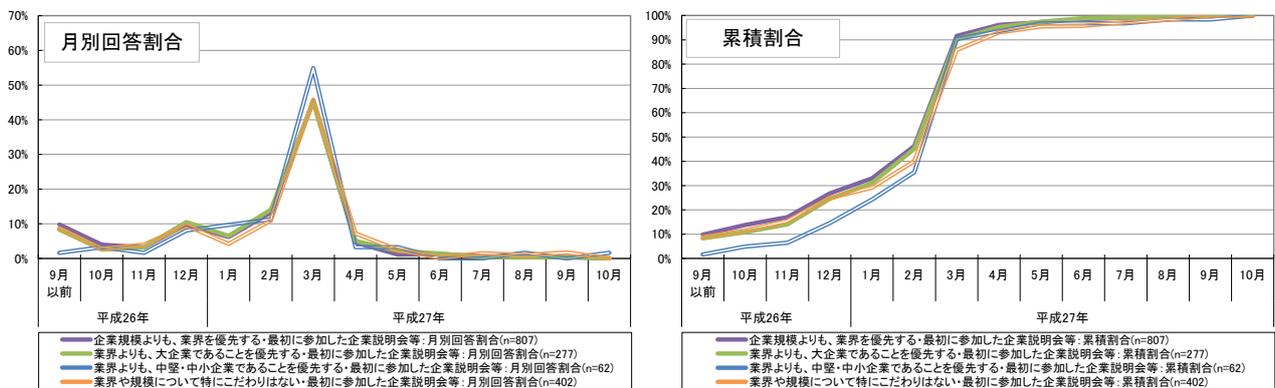


### ③大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、企業説明会やセミナー等に参加した時期

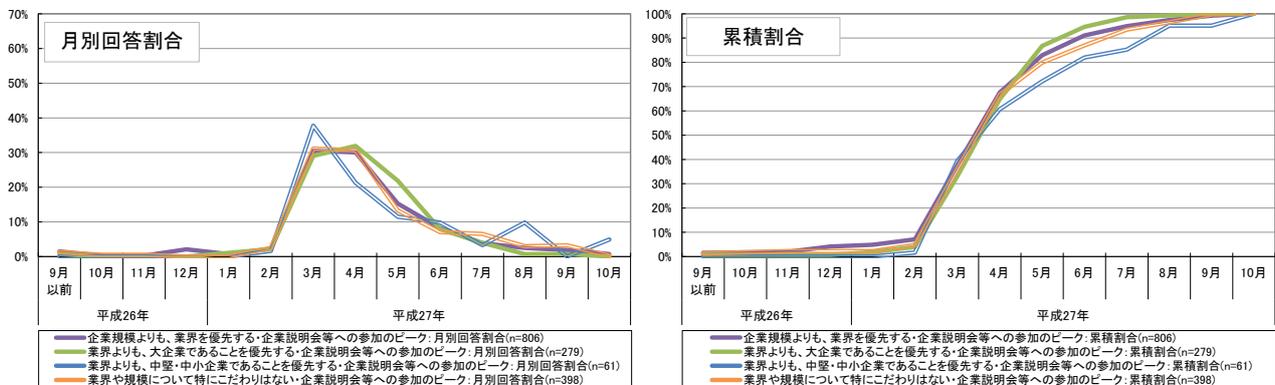
大学4年生に関して、就職先の業界や企業規模の考え方別に、企業説明会やセミナー等に参加した時期についてみると<sup>20</sup>、累積割合に関して、「業界よりも、中堅・中小企業であることを優先する」と回答した者では、「最初に参加した時期」「参加のピーク」「最後に参加した時期」のいずれについても、そのほかの者と比較してより遅い時期であった者の割合が高いことがうかがえる(図表4-2-5)。なお、「最後に参加した時期」に関して、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者では、「平成27年6月」や「平成27年7月」の時期により集中している状況にあることがわかる。

図表4-2-5 大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、企業説明会やセミナー等に参加した時期

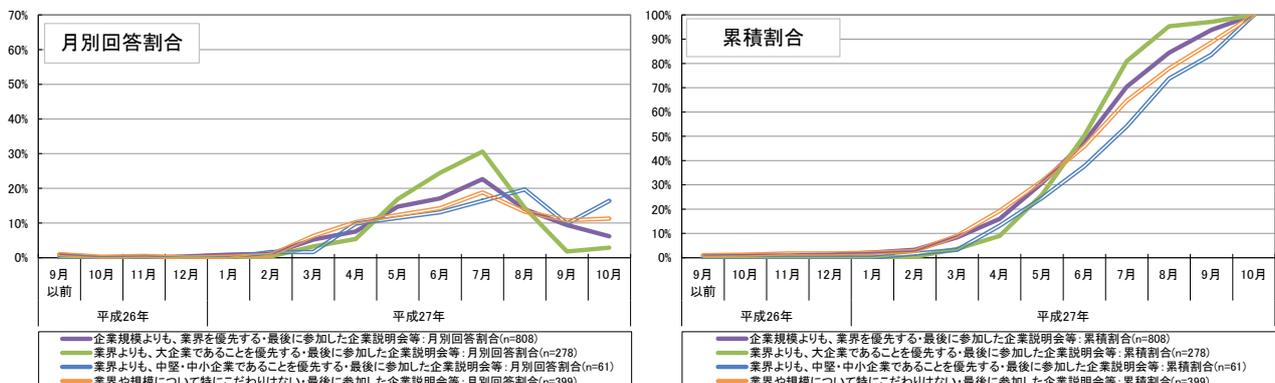
#### <最初に参加した時期>



#### <参加のピーク>



#### <最後に参加した時期>



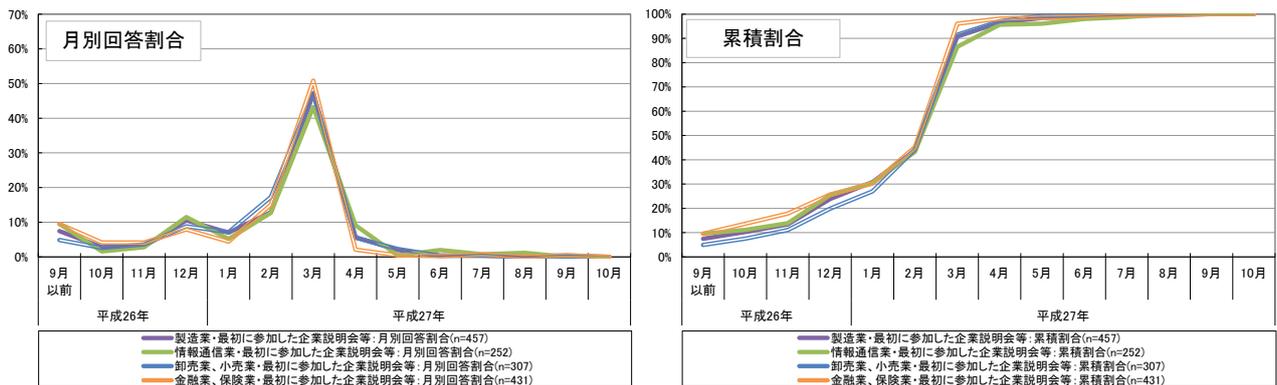
<sup>20</sup> 就職先の業界や企業規模の考え方に関して、「業界よりも、ベンチャー企業であることを優先する」と回答した者については、集計対象の度数が非常に少ないことから、ここでは集計の対象外とした。

④大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、企業説明会やセミナー等に参加した時期

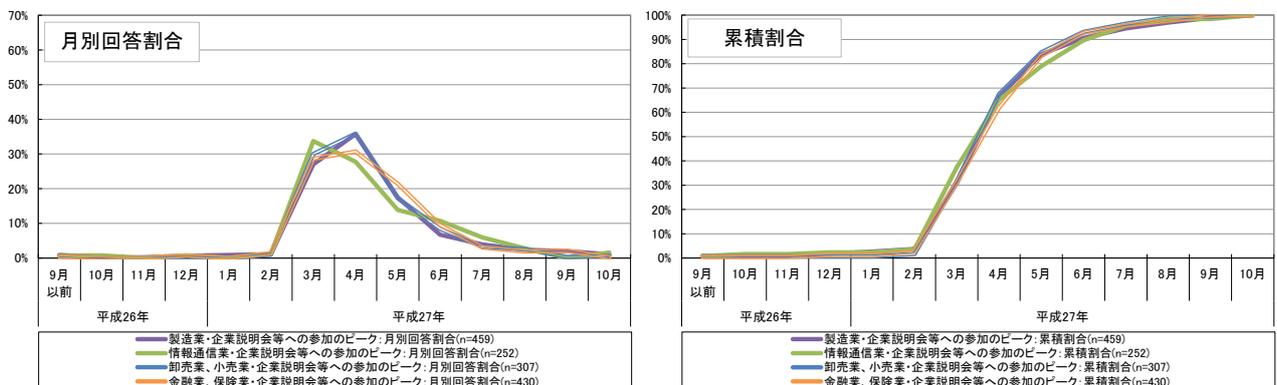
大学4年生に関して、志望していた（希望している）就職先の業界別に、企業説明会やセミナー等に参加した時期についてみた場合<sup>21</sup>、「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業界に関して、志望業界別の違いはそれほど大きく見られない（図表4-2-6）。

図表4-2-6 大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、企業説明会やセミナー等に参加した時期

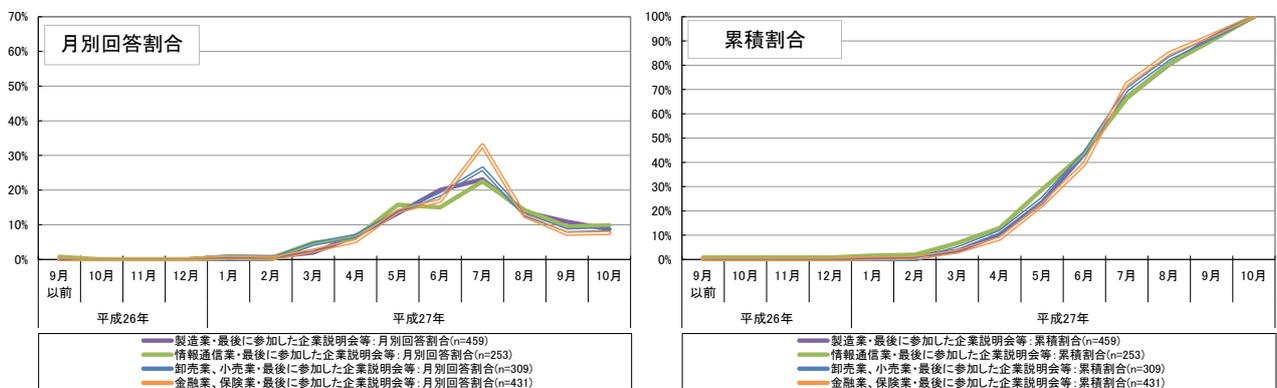
＜最初に参加した時期＞



＜参加のピーク＞



＜最後に参加した時期＞

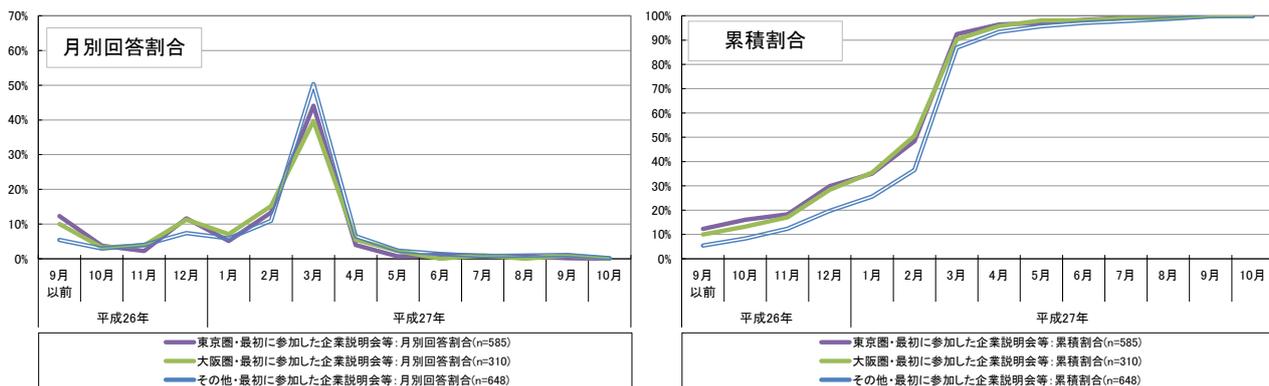


<sup>21</sup> 大学4年生に関して、複数回答による設問で回答割合が比較的高かった（回答件数が比較的多かった）「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業種について集計した。なお、複数回答による設問に基づく分類であるため、例えば、「製造業」と「情報通信業」の両方を志望していた学生がいた場合に、その者は両方の分類の集計に含まれている点には留意されたい。

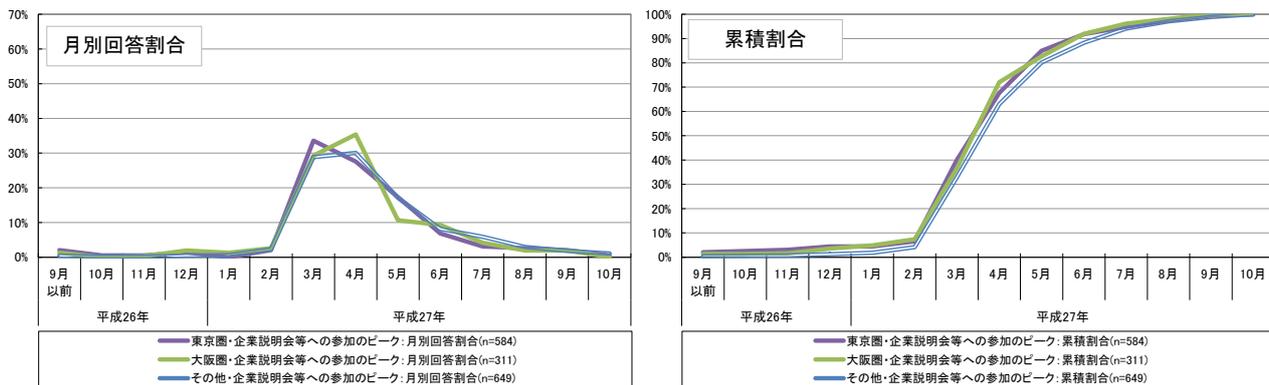
⑤大学4年生の大学の所在地域別、企業説明会やセミナー等に参加した時期

大学4年生に関して、大学の所在地域別に企業説明会やセミナー等に参加した時期についてみると、「東京圏」や「大阪圏」の学生のほうが、「その他」の地域の学生と比較して、「最初に参加した時期」や「最後に参加した時期」について、より早い時期であった者の割合が高いことがうかがえる（図表4-2-7）。

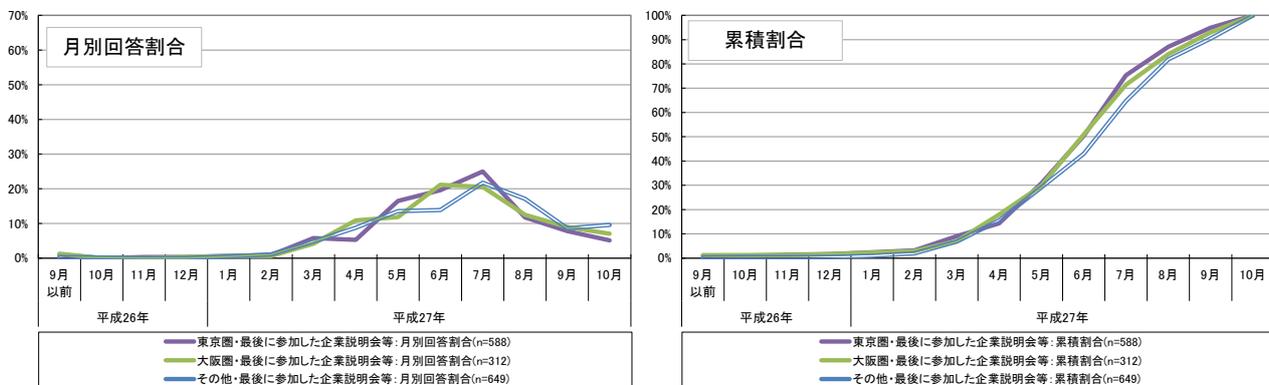
図表 4-2-7 大学4年生の大学の所在地域別、企業説明会やセミナー等に参加した時期  
 <最初に参加した時期>



<参加のピーク>



<最後に参加した時期>

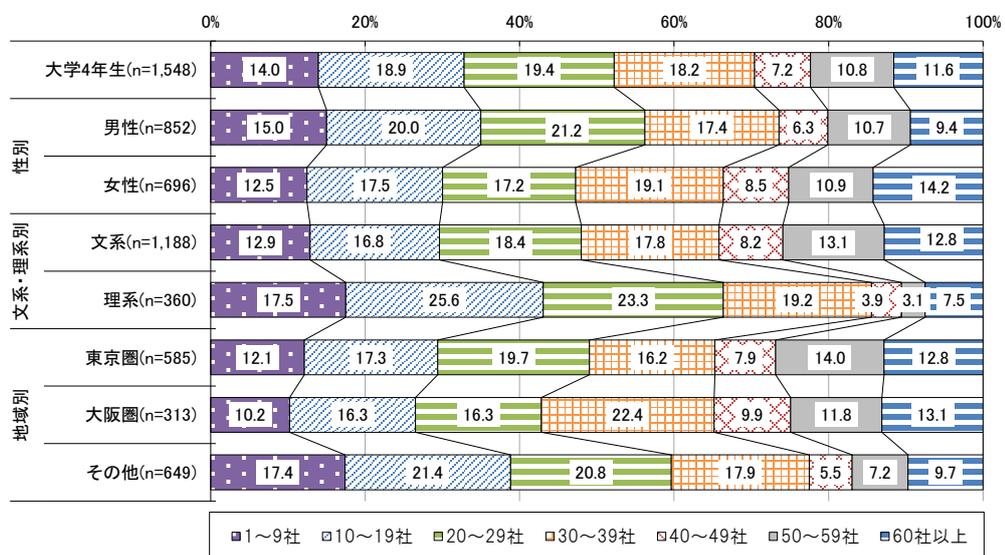


## ⑥企業説明会やセミナー等に参加した回数

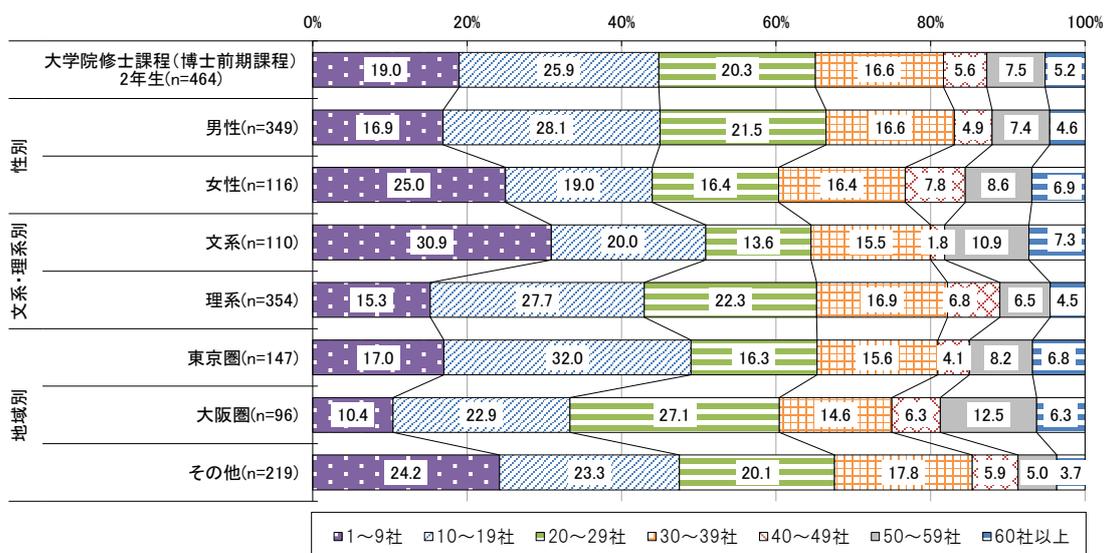
企業説明会やセミナー等の参加状況として、合計で何社の企業説明会やセミナーに参加したかをたずねたところ、大学4年生について、30社以上の者が47.8%、50社以上の者が22.4%となっている（図表4-2-8）。属性別にみると、男性よりも女性のほうが、理系よりも文系のほうが、地域別には東京圏や大阪圏の者のほうが、企業説明会やセミナー等の参加数が比較的多い傾向にあることがうかがえる。

また、大学院修士課程（博士前期課程）2年生についてみると、30社以上の者は34.9%、50社以上の者は12.7%となっている（図表4-2-9）。属性別にみると、「女性」や「文系」の場合について、企業説明会やセミナー等の参加数が比較的小さい者と多い者との分散がより大きいことがうかがえる。

図表 4-2-8 大学4年生、企業説明会やセミナー等に参加した企業数



図表 4-2-9 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、企業説明会やセミナー等の参加企業数



### (3) エントリーシート提出の状況

#### ① エントリーシートを提出した時期の月別・累積割合

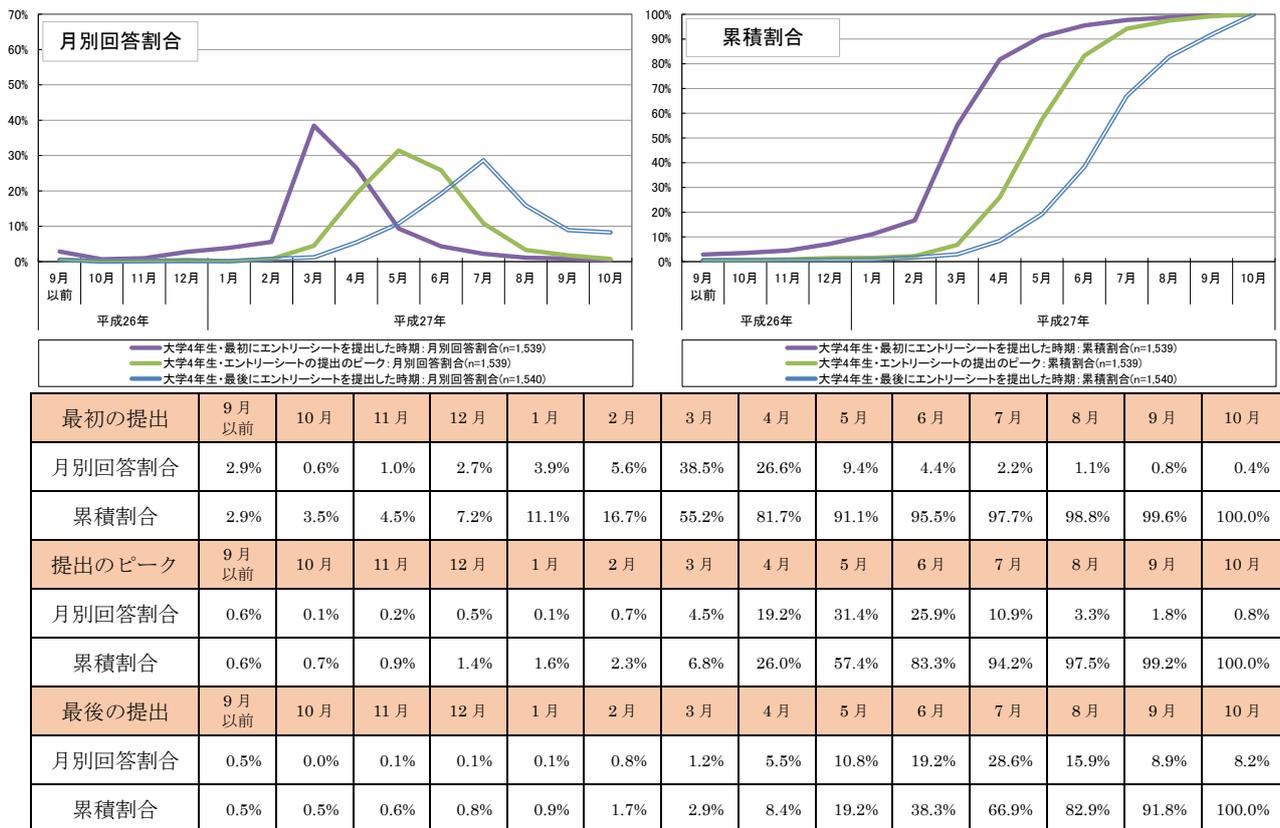
エントリーシートの提出時期について、「最初に提出した時期」「提出のピーク」「最後に提出した時期」をそれぞれたずねた<sup>22</sup>。

「最初に提出した時期」については、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「平成27年3月」の割合が最も高く（各38.5%、36.9%）、次いで「平成27年4月」の割合が高くなっている（図表4-3-1、図表4-3-2）。なお、全体の65%以上がこの時期に最初のエントリーシートを提出している。

「提出のピーク」は、大学4年生では「平成27年5月」が31.4%と最も割合が高く、次いで「平成27年6月」「平成27年4月」の順で高い。大学院修士課程（博士前期課程）2年生についても、「平成27年5月」が34.4%で最も高く、次いで「平成27年4月」「平成27年6月」がそれぞれ2割程度となっている。

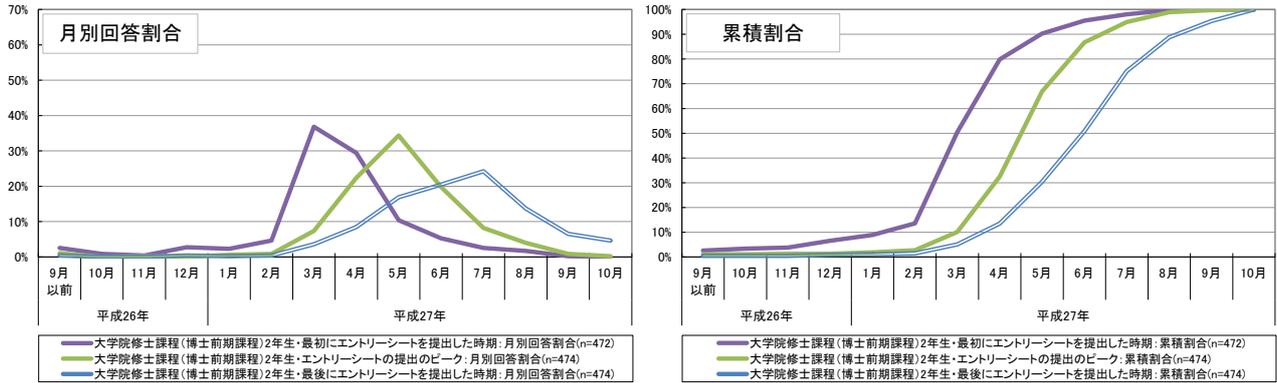
「最後に提出した時期」については、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに「平成27年7月」が最も割合が高く（各28.6%、24.3%）、次いで「平成27年6月」との回答も約2割となっている。

図表 4-3-1 大学4年生、エントリーシートの提出時期



<sup>22</sup> エントリーシートの提出とは、企業や官公庁などの採用選考に参加するための応募シートを提出することを指すものとし、就職情報会社のサイト等への登録のみの場合は提出数に入れないように、回答者に案内した上で調査を行った。なお、エントリーシートの提出を「特段行わなかった」と回答した者（大学4年生：75件、大学院修士課程（博士前期課程）2年生：32件）はここでは集計の対象外とした。

図表 4-3-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、エントリーシートの提出時期



最初の提出	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	2.5%	0.8%	0.4%	2.8%	2.3%	4.7%	36.9%	29.4%	10.4%	5.3%	2.5%	1.7%	0.2%	0.0%
累積割合	2.5%	3.4%	3.8%	6.6%	8.9%	13.6%	50.4%	79.9%	90.3%	95.6%	98.1%	99.8%	100.0%	100.0%
提出のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.6%	0.8%	7.4%	22.4%	34.4%	19.8%	8.2%	4.0%	0.8%	0.2%
累積割合	1.1%	1.1%	1.3%	1.3%	1.9%	2.7%	10.1%	32.5%	66.9%	86.7%	94.9%	98.9%	99.8%	100.0%
最後の提出	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	0.2%	0.4%	3.6%	8.4%	16.9%	20.5%	24.3%	13.7%	6.5%	4.6%
累積割合	0.4%	0.4%	0.4%	0.8%	1.1%	1.5%	5.1%	13.5%	30.4%	50.8%	75.1%	88.8%	95.4%	100.0%

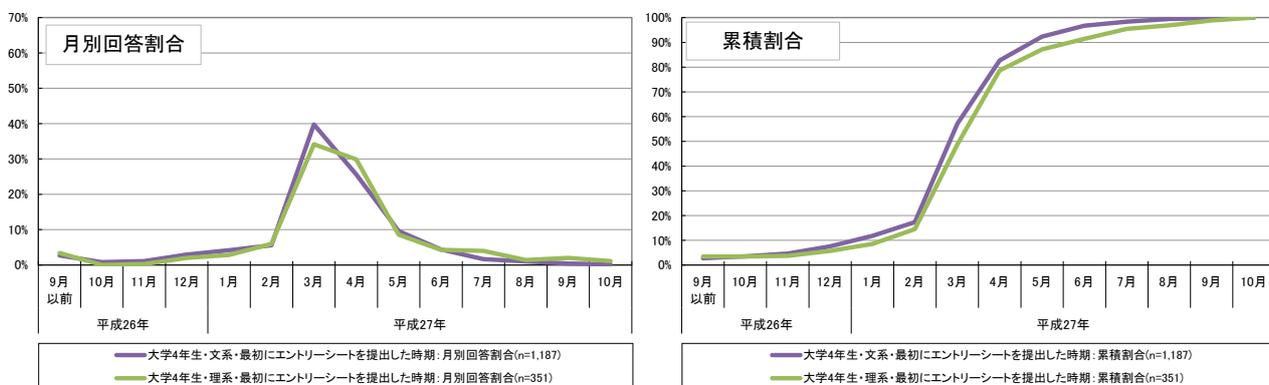
## ②文系・理系別、エントリーシートの提出時期

エントリーシートの提出時期について文系・理系別にみると、大学4年生について「提出のピーク」が、文系の学生では「平成27年5月」「平成27年6月」の回答割合が高いのに対して、理系では「平成27年4月」「平成27年5月」の回答割合が高くなっており、また、「最後に提出した時期」の回答割合が最も高い月にも違いがみられる（図表4-3-3）。

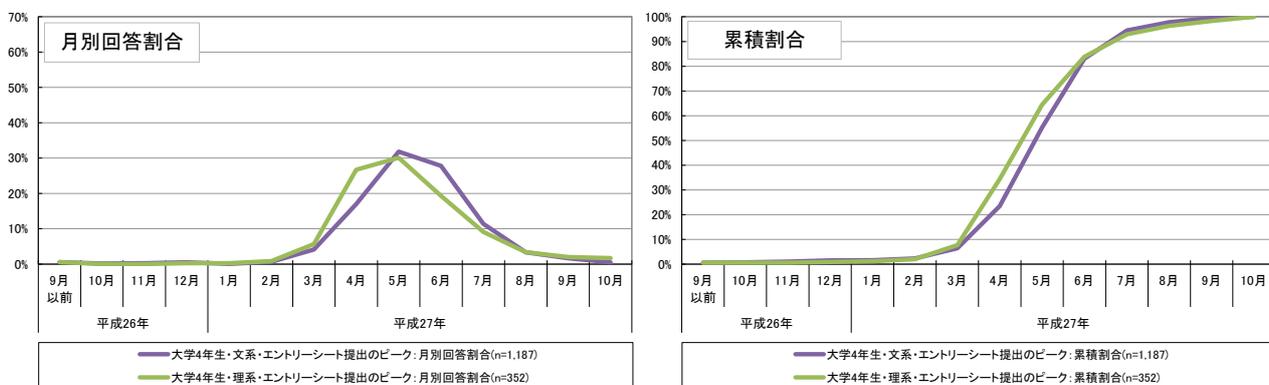
大学院修士課程（博士前期課程）2年生に関しても、「最初に提出した時期」「提出のピーク」について、回答割合が最も高い月が文系と理系とで異なっており、文系の学生のほうがより遅い時期に提出している者の割合が高いことがうかがえる（図表4-3-4）。

図表 4-3-3 大学4年生の文系・理系別、エントリーシートの提出時期

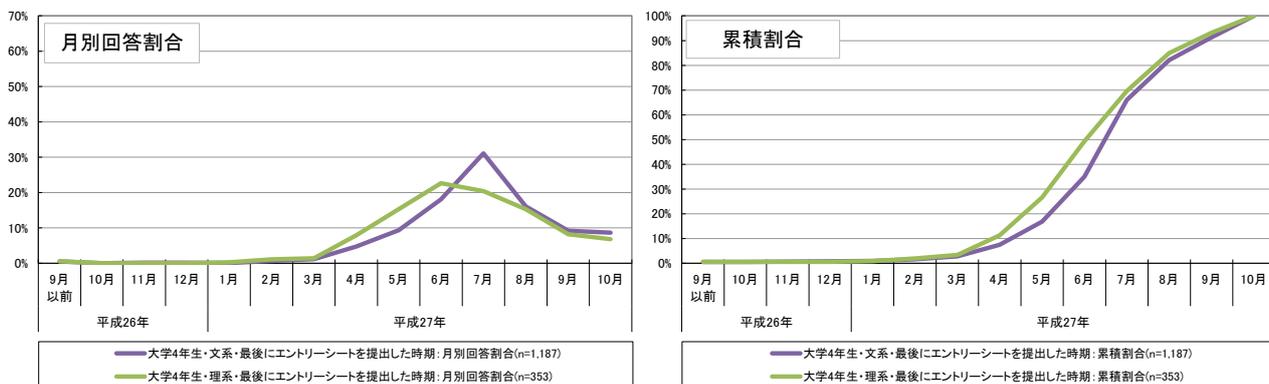
### <最初に提出した時期>



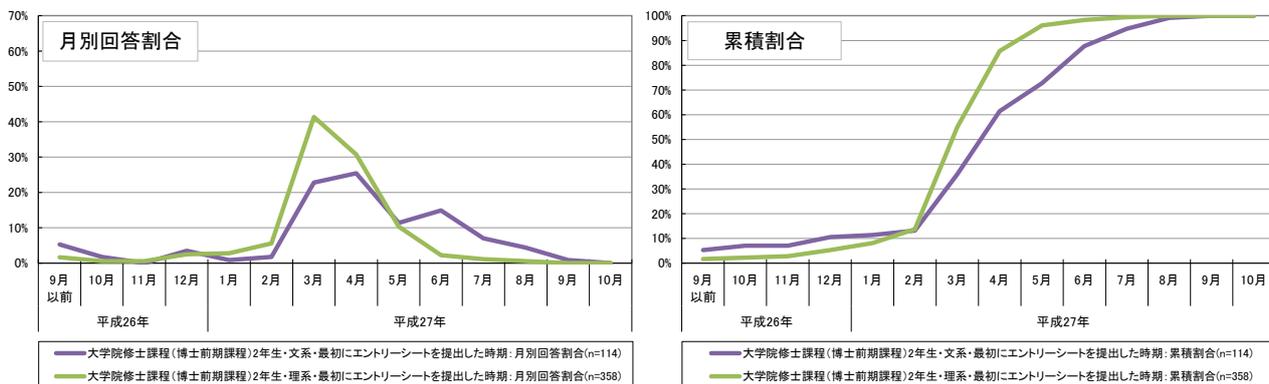
### <提出のピーク>



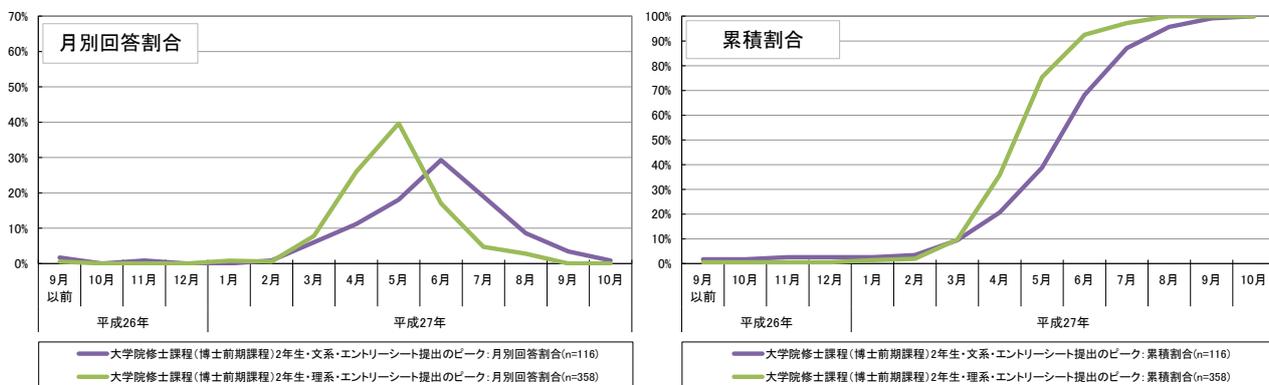
### <最後に提出した時期>



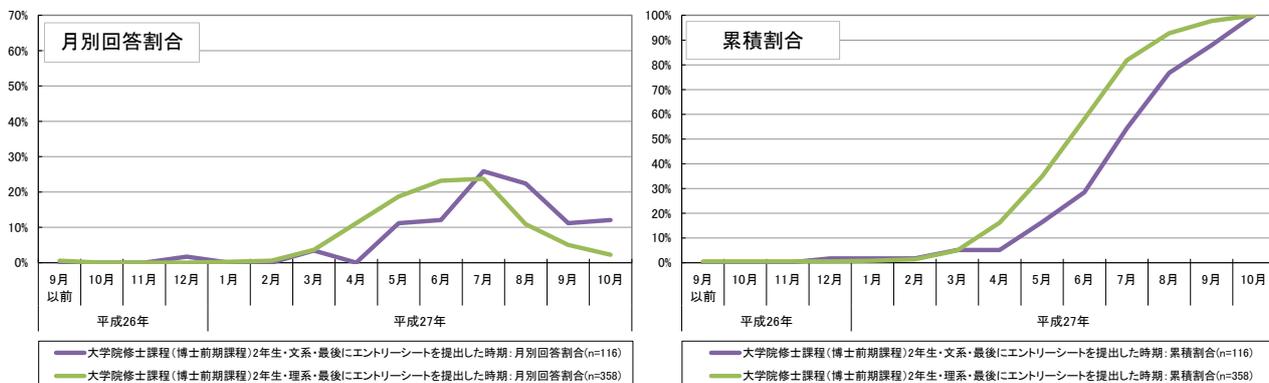
図表 4-3-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、エントリーシートの提出時期  
 <最初に提出した時期>



<提出のピーク>



<最後に提出した時期>

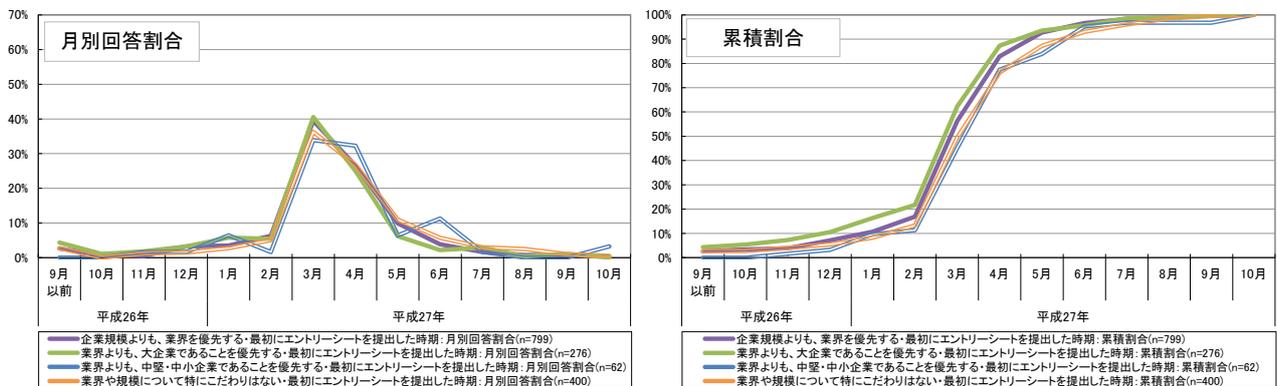


### ③大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、エントリーシートの提出時期

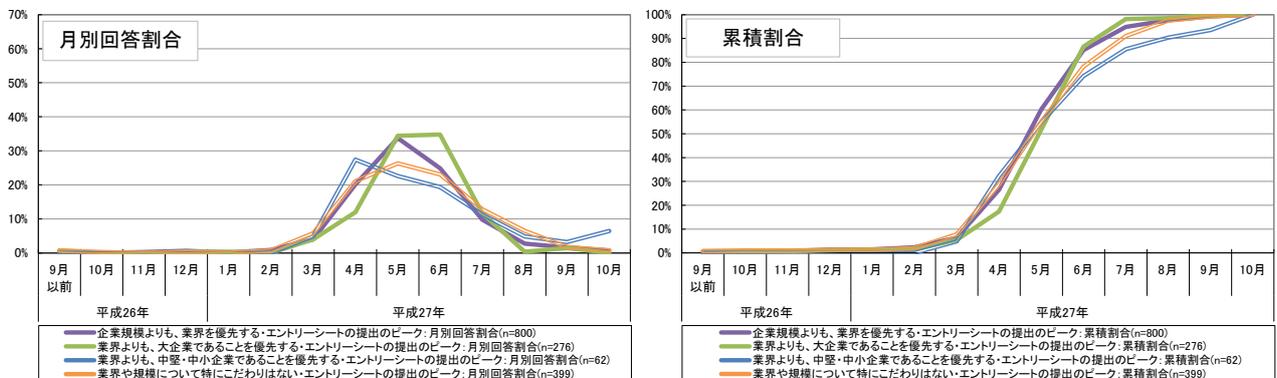
大学4年生に関して、就職先の業界や企業規模の考え方別に、エントリーシートの提出時期についてみると<sup>23</sup>、累積割合に関して、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者では、「最初に提出した時期」がそのほかの者と比較してより早い時期であった者の割合が高いことがうかがえる(図表4-3-5)。また、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者では、「提出のピーク」は「平成27年6月」や「平成27年7月」に、「最後に提出した時期」については「平成27年7月」の時期により集中している状況にあることがわかる。

図表4-3-5 大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、  
エントリーシートの提出時期

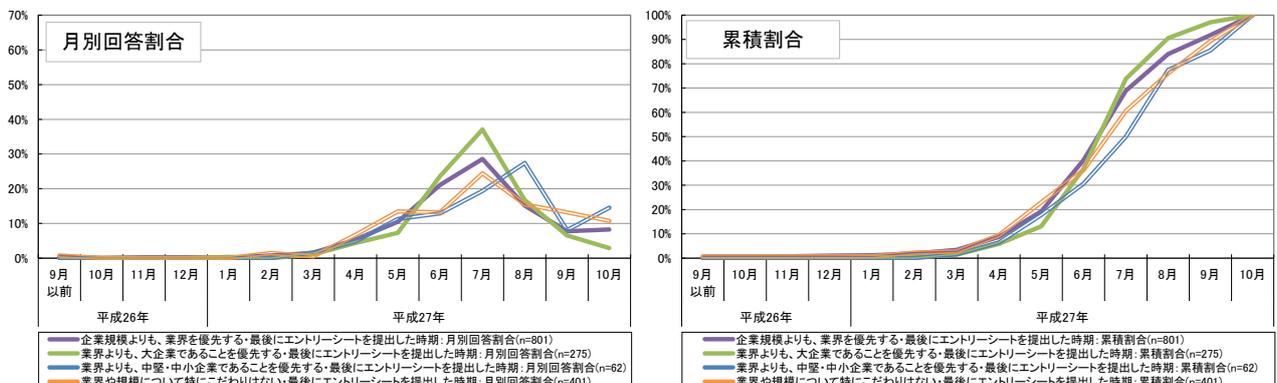
#### <最初に提出した時期>



#### <提出のピーク>



#### <最後に提出した時期>



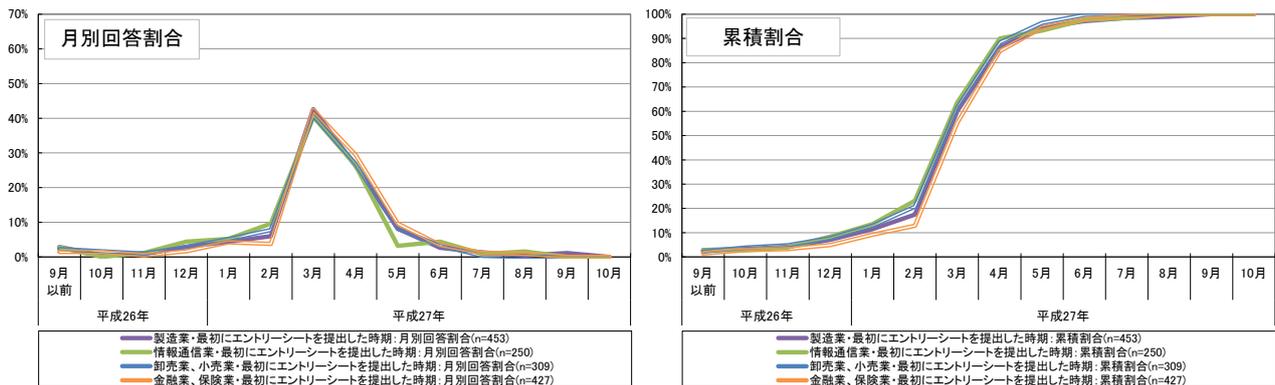
<sup>23</sup> 就職先の業界や企業規模の考え方に関して、「業界よりも、ベンチャー企業であることを優先する」と回答した者については、集計対象の度数が非常に少ないことから、ここでは集計の対象外とした。

#### ④大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、エントリーシートの提出時期

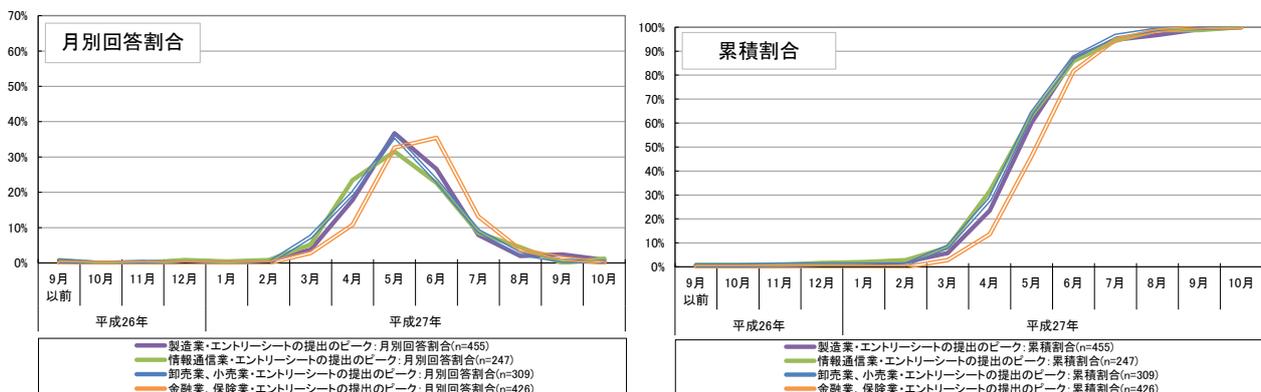
大学4年生に関して、志望していた（希望している）就職先の業界別に、エントリーシートの提出時期についてみると<sup>24</sup>、「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業界に関して、特に「金融業、保険業」を志望していた（希望している）者では、「提出のピーク」についてより遅い時期であった者の割合が高いことがうかがえる（図表4-3-6）。

図表4-3-6 大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、エントリーシートの提出時期

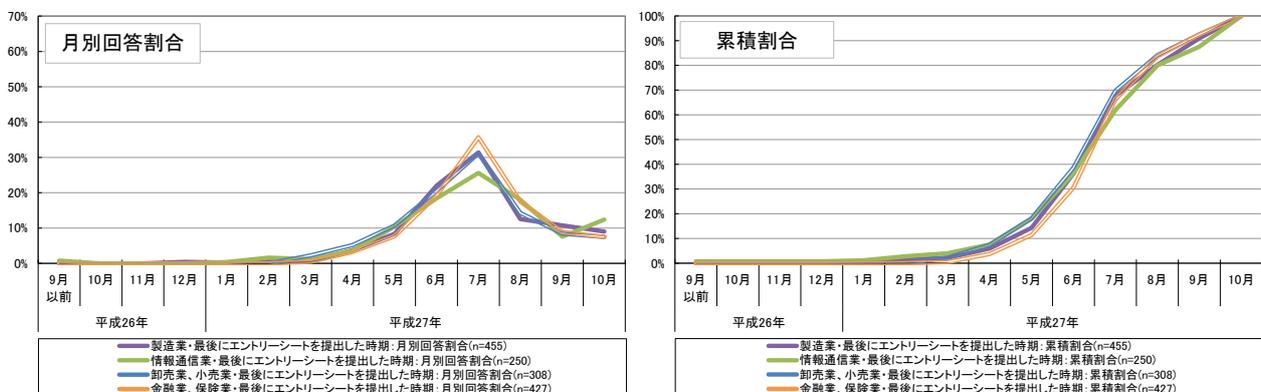
##### ＜最初に提出した時期＞



##### ＜提出のピーク＞



##### ＜最後に提出した時期＞

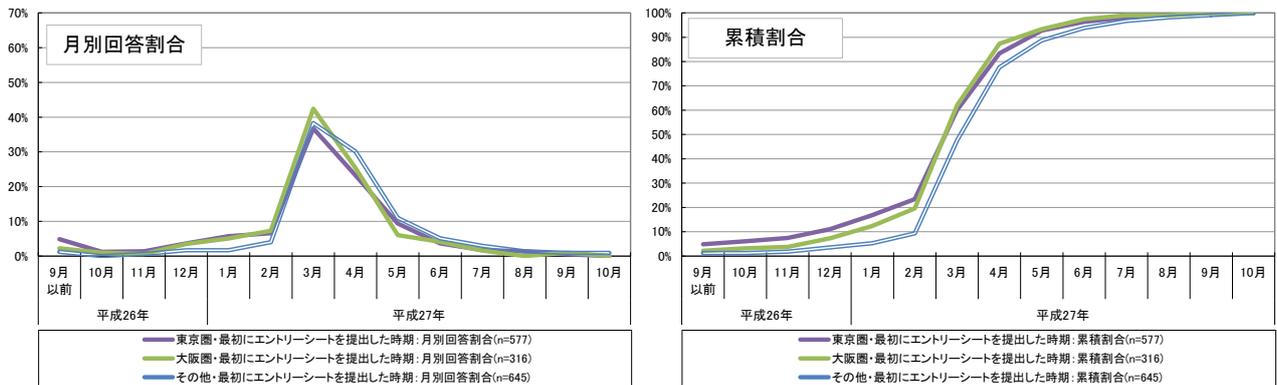


<sup>24</sup> 大学4年生に関して、複数回答による設問で回答割合が比較的高かった（回答件数が比較的多かった）「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業種について集計した。なお、複数回答による設問に基づく分類であるため、例えば、「製造業」と「情報通信業」の両方を志望していた学生がいた場合に、その者は両方の分類の集計に含まれている点には留意されたい。

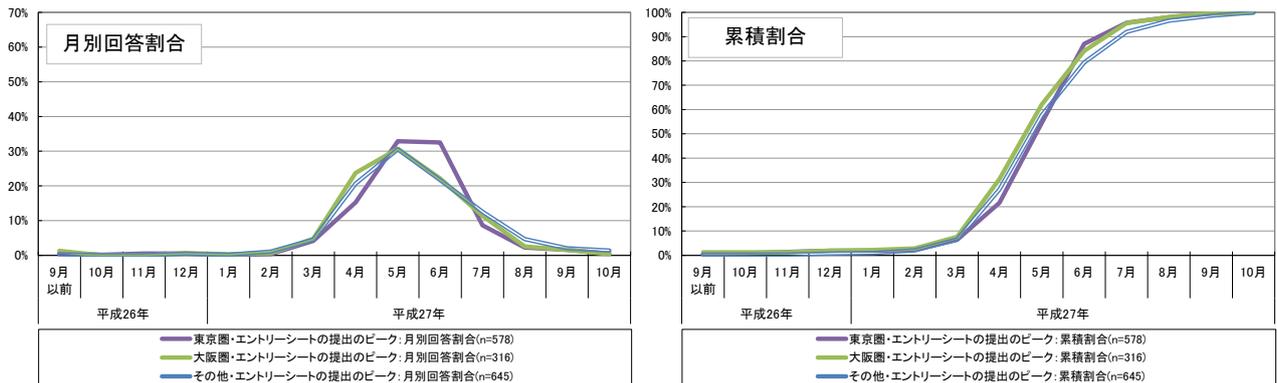
⑤大学4年生の大学の所在地域別、エントリーシートの提出時期

大学4年生に関して、大学の所在地域別にエントリーシートの提出時期についてみると、「東京圏」や「大阪圏」の学生のほうが、「その他」の地域の学生と比較して、「最初に提出した時期」がより早い時期であった者の割合が高いことがうかがえる（図表4-3-7）。

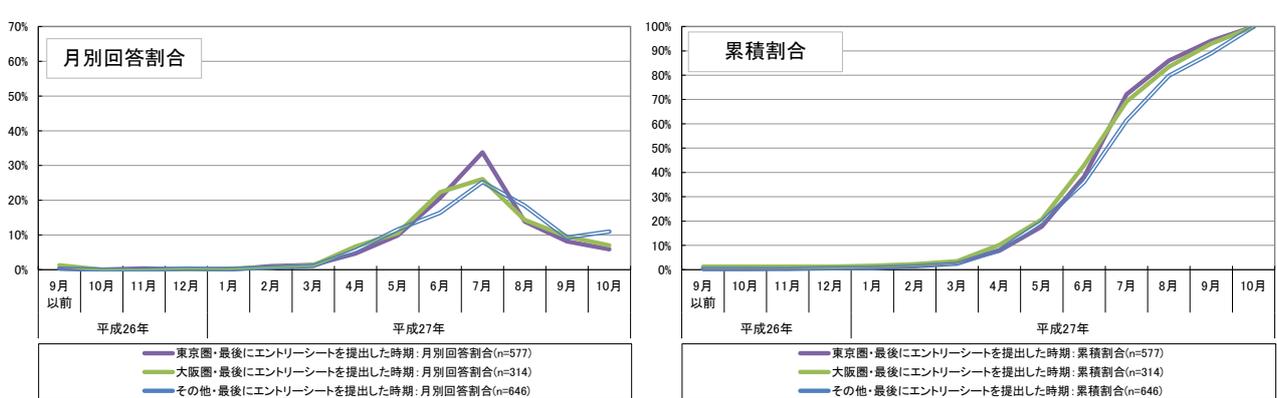
図表4-3-7 大学4年生の大学の所在地域別、エントリーシートの提出時期  
 <最初に提出した時期>



<提出のピーク>



<最後に提出した時期>

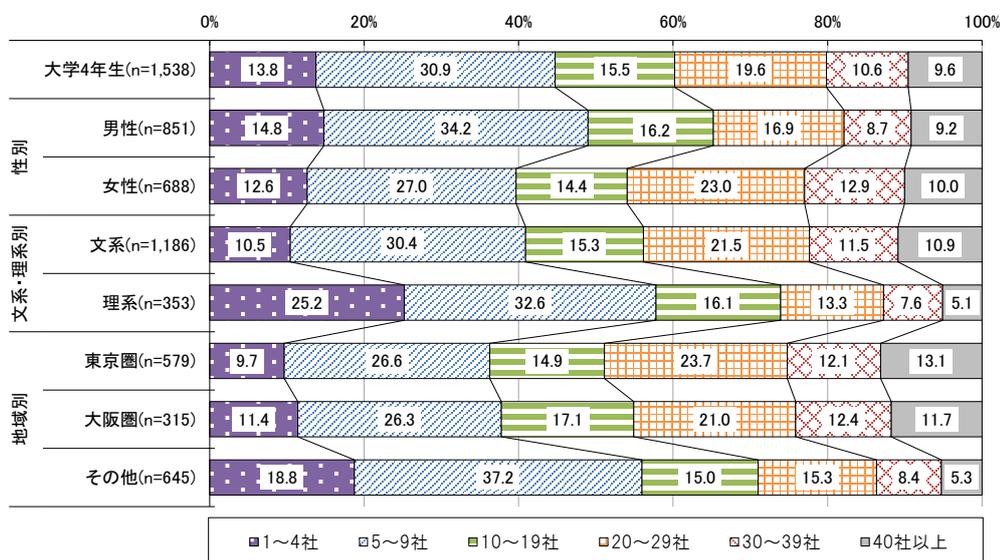


## ⑥ エントリーシートの提出数

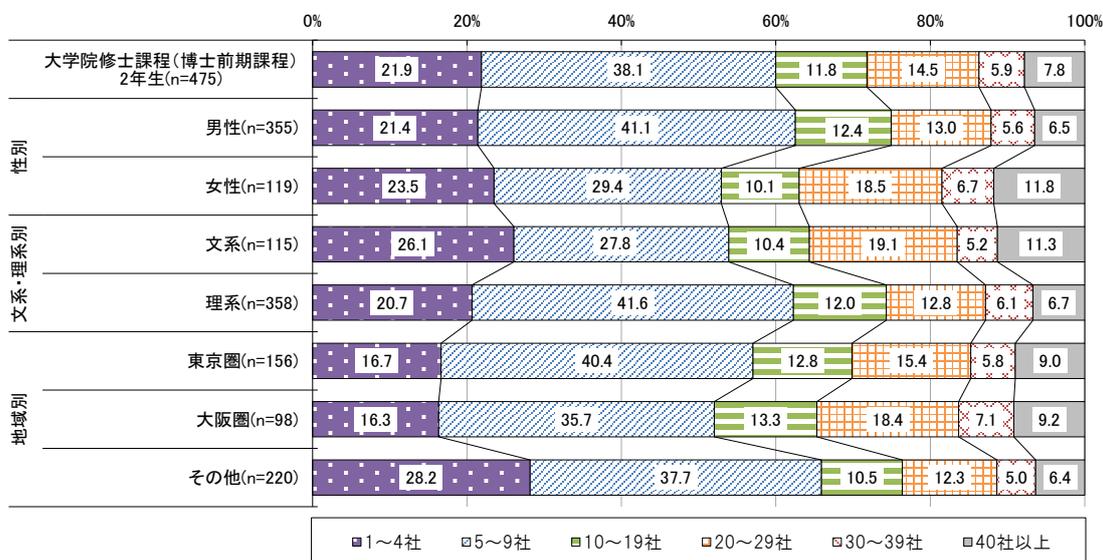
大学4年生について、何社にエントリーシートを提出したかをたずねたところ、「5~9社」に該当する者が30.9%となっている（図表4-3-8）。また、比較的提出数が多かった者についてみると、20社以上の者が39.8%、40社以上の者が9.6%となっている。属性別では、男性よりも女性のほうが、理系よりも文系のほうが、地域別には東京圏や大阪圏の者のほうが、エントリーシート提出数が比較的多い傾向にあることがうかがえる。

また、大学院修士課程（博士前期課程）2年生についてみると、「5~9社」に該当する者は38.1%であり、20社以上の者は28.2%、40社以上の者は7.8%となっている（図表4-3-9）。属性別にみた場合、男性よりも女性のほうが、理系よりも文系のほうが、地域別には東京圏や大阪圏の者のほうが、エントリーシート提出数が比較的多い傾向にあることがうかがえる。

図表 4-3-8 大学4年生、エントリーシートの提出数



図表 4-3-9 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、エントリーシートの提出数



## (4) 採用面接の実施状況

### ①採用面接実施時期の月別・累積割合

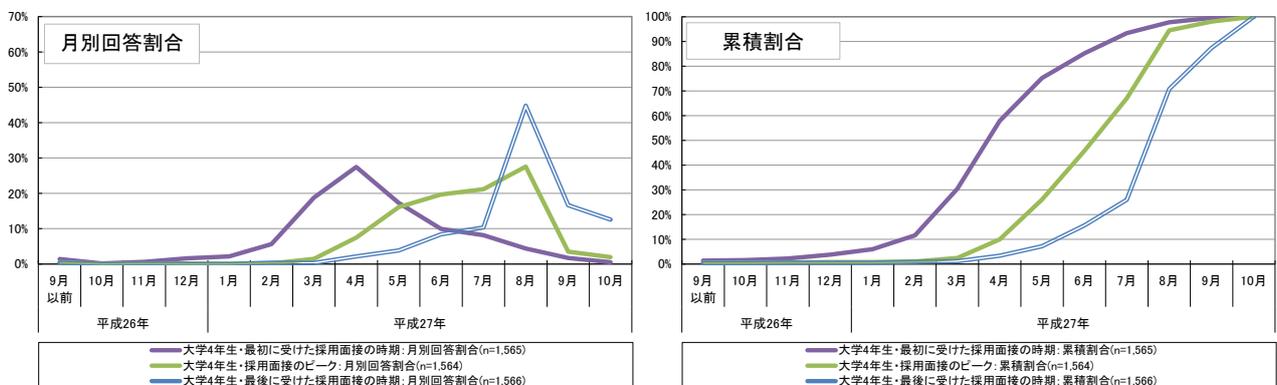
採用面接の時期について、「最初に受けた採用面接の時期」「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」をそれぞれたずねた<sup>25</sup>。

「最初に受けた採用面接の時期」については、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「平成27年4月」が約3割（各27.5%、30.6%）となっており、「平成27年3月」「平成27年5月」の回答と合わせると、6割以上がこの時期に最初の採用面接を受けている状況にある（図表4-4-1、図表4-4-2）。また、累積割合をみると、それぞれ半数以上（各57.9%、53.5%）が平成27年4月以前に最初の採用面接を受けたと回答している。

「採用面接のピーク」について、大学4年生に関しては「平成27年8月」が27.6%で最も割合が高く、次いで「平成27年7月」「平成27年6月」について約2割の回答がみられる。大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、「平成27年8月」と「平成27年6月」の回答が同程度となっており、「平成27年5月」の回答も約2割となっている。なお、累積割合をみると、大学4年生の66.9%、大学院修士課程（博士前期課程）2年生の72.1%が、平成27年7月以前と回答している。

「最後に受けた採用面接の時期」については、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「平成27年8月」が4割以上（各44.8%、47.3%）となっている。なお、大学4年生については、次いで「平成27年9月」の回答割合が高くなっている。大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、「平成27年6月」の回答が14.7%と若干高くなっている。

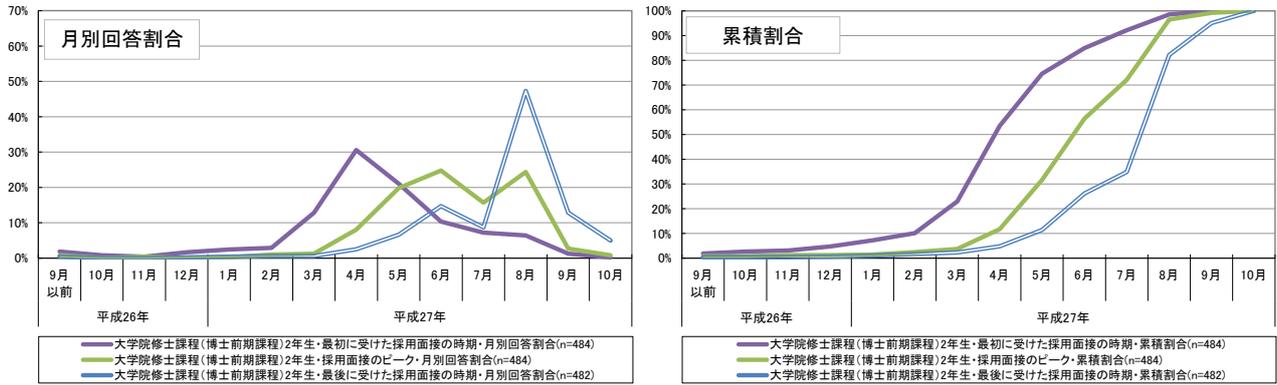
図表 4-4-1 大学4年生、採用面接の実施時期



最初の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.4%	0.2%	0.6%	1.6%	2.2%	5.6%	18.8%	27.5%	17.3%	10.0%	8.2%	4.4%	1.7%	0.5%
累積割合	1.4%	1.6%	2.2%	3.8%	6.0%	11.6%	30.4%	57.9%	75.2%	85.2%	93.4%	97.8%	99.5%	100.0%
面接のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.5%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	1.5%	7.5%	16.1%	19.7%	21.2%	27.6%	3.5%	2.0%
累積割合	0.5%	0.5%	0.7%	0.8%	0.8%	1.0%	2.5%	10.0%	26.1%	45.8%	66.9%	94.5%	98.0%	100.0%
最後の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.4%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.4%	0.3%	2.2%	3.8%	8.4%	10.3%	44.8%	16.7%	12.6%
累積割合	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%	0.5%	0.9%	1.2%	3.4%	7.2%	15.6%	26.0%	70.8%	87.4%	100.0%

<sup>25</sup> 採用面接について「特段行わなかった」と回答した者（大学4年生：49件、大学院修士課程（博士前期課程）2年生：23件）はここでは集計の対象外とした。

図表 4-4-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、採用面接の実施時期



最初の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.9%	0.8%	0.4%	1.7%	2.5%	2.9%	12.8%	30.6%	21.1%	10.3%	7.2%	6.4%	1.2%	0.2%
累積割合	1.9%	2.7%	3.1%	4.8%	7.2%	10.1%	22.9%	53.5%	74.6%	84.9%	92.1%	98.6%	99.8%	100.0%
面接のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.8%	0.0%	0.4%	0.0%	0.2%	1.0%	1.2%	8.1%	19.8%	24.8%	15.7%	24.4%	2.7%	0.8%
累積割合	0.8%	0.8%	1.2%	1.2%	1.4%	2.5%	3.7%	11.8%	31.6%	56.4%	72.1%	96.5%	99.2%	100.0%
最後の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.4%	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%	0.6%	0.6%	2.5%	6.6%	14.7%	8.7%	47.3%	12.9%	5.0%
累積割合	0.4%	0.4%	0.4%	0.6%	1.0%	1.7%	2.3%	4.8%	11.4%	26.1%	34.9%	82.2%	95.0%	100.0%

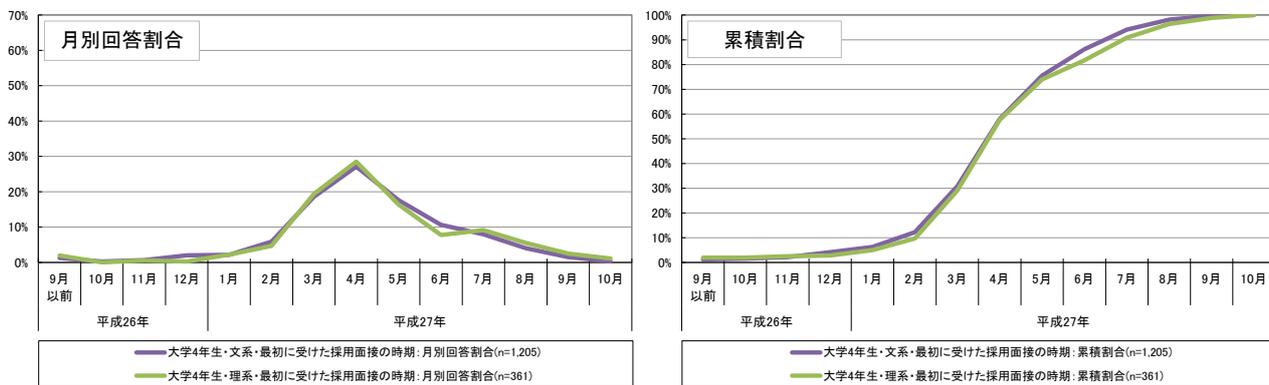
## ②文系・理系別、採用面接の実施時期

採用面接の時期について文系・理系別にみると、大学4年生の文系の学生について、「採用面接のピーク」は「平成27年8月」の回答割合が約3割と最も高く、次いで、「平成27年7月」「平成27年6月」の回答が2割前後となっている（図表4-4-3）。

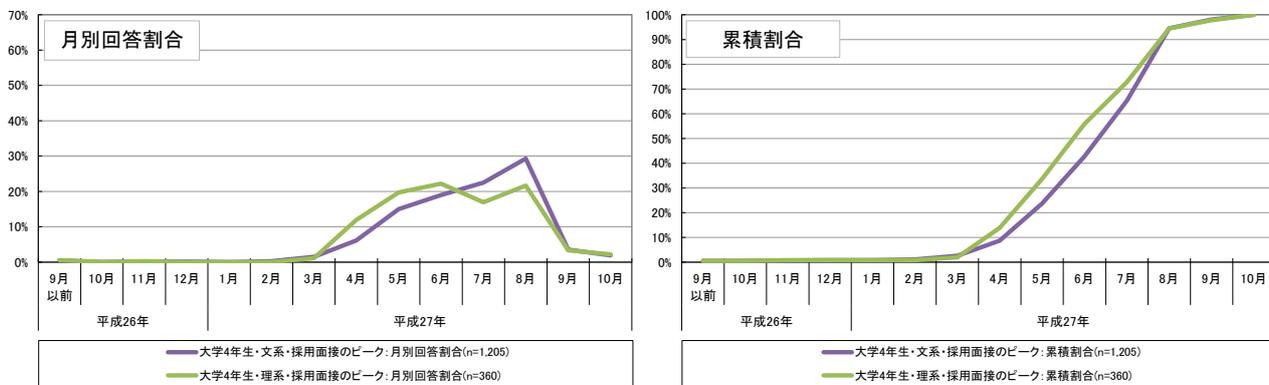
他方で、理系の学生については、「採用面接のピーク」について、「平成27年5月」～「平成27年8月」の時期にそれぞれ2割前後の回答がみられる。また、「平成27年4月」の回答も1割以上となっており、文系の学生の回答と比べて高くなっている。

図表 4-4-3 大学4年生の文系・理系別、採用面接の実施時期

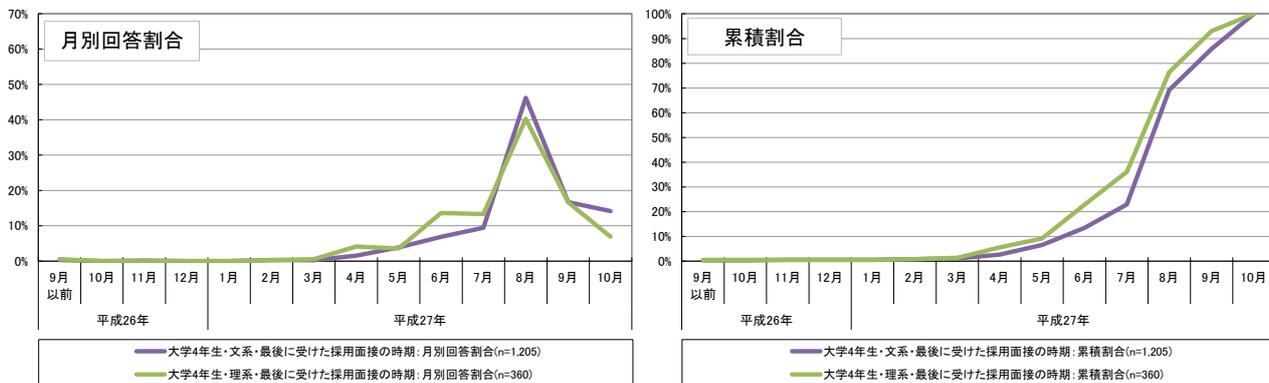
### <最初に受けた採用面接の時期>



### <採用面接のピーク>



### <最後に受けた採用面接の時期>

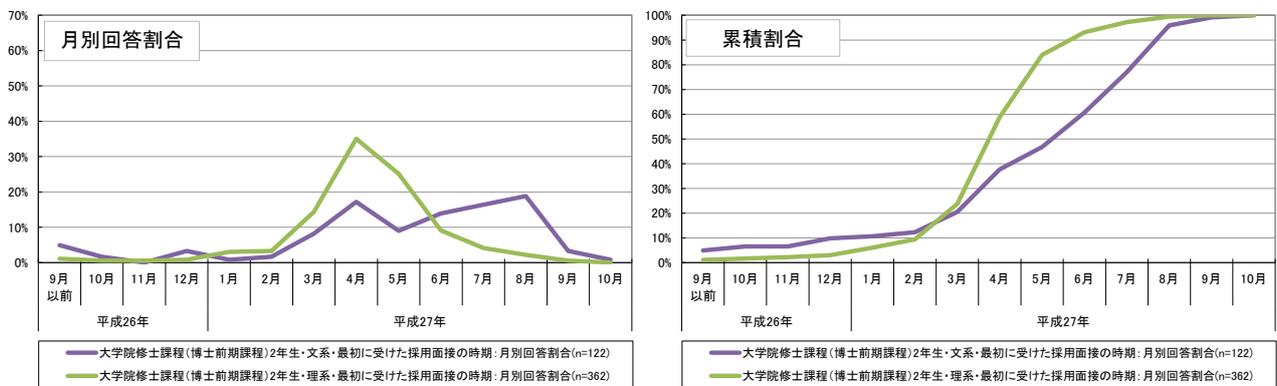


大学院修士課程（博士前期課程）2年生の採用面接の時期について文系・理系別にみると、文系の学生については、「最初に受けた採用面接の時期」に関し、「平成27年4月」と「平成27年8月」との回答が同程度となっている（図表4-4-4）。「採用面接のピーク」に関しては、「平成27年8月」の回答割合が約4割と高く、次いで「平成27年7月」が2割以上となっている。

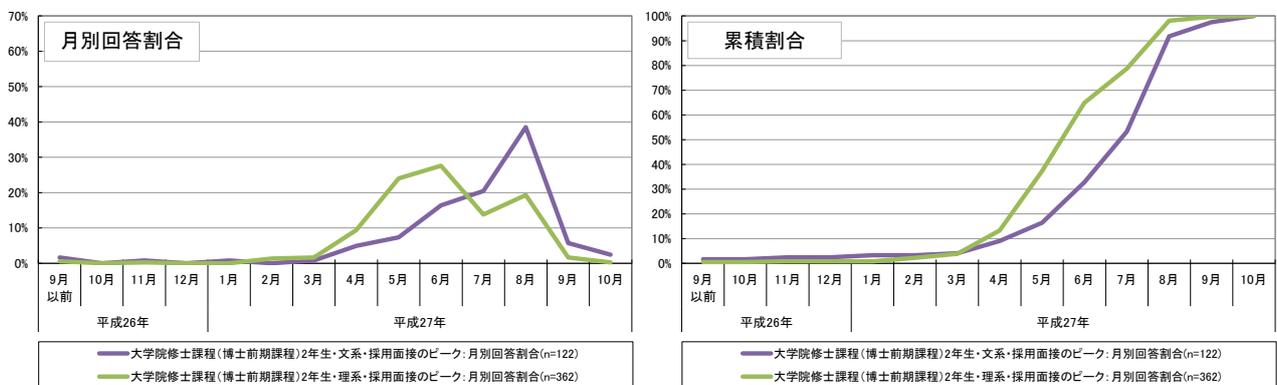
理系の学生については、「最初に受けた採用面接の時期」について「平成27年4月」が3割以上と最も割合が高くなっており、文系の学生との違いが見られる。「採用面接のピーク」に関しても、理系の学生では「平成27年5月」「平成26年6月」の回答割合が高くなっており、この時期にピークを迎えたとの回答が合わせて5割以上となっている。

図表 4-4-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、採用面接の実施時期

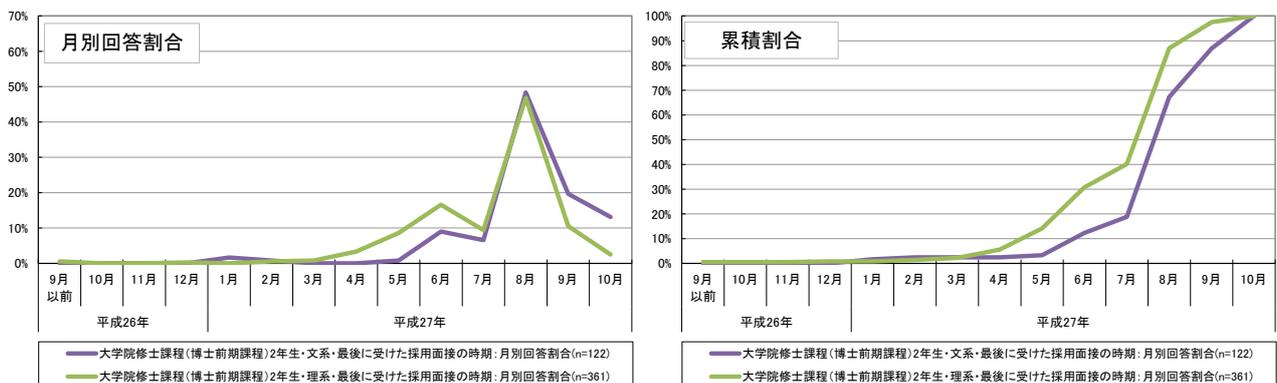
<最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



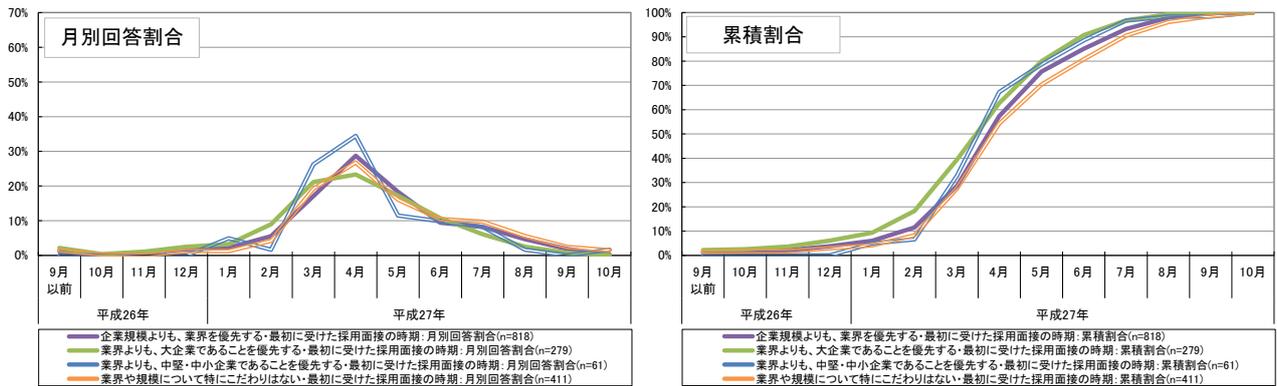
<最後に受けた採用面接の時期>



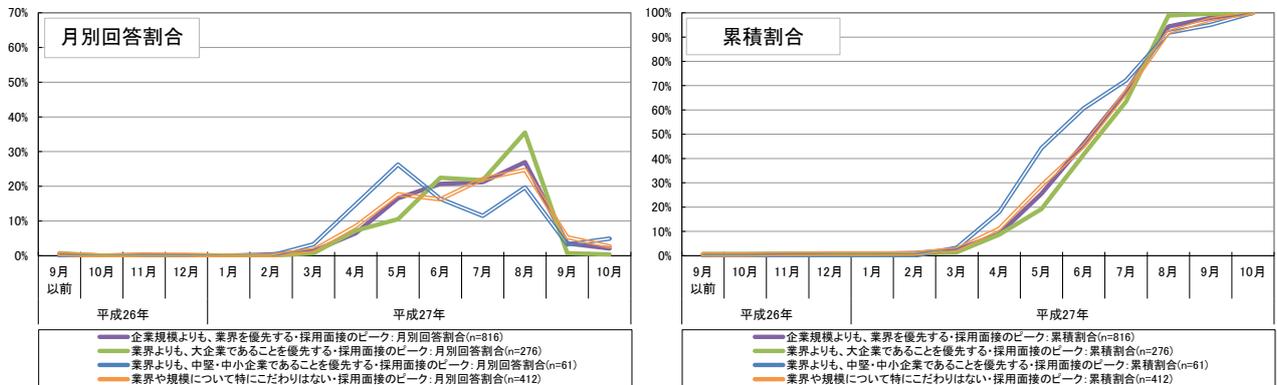
### ③大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、採用面接の実施時期

大学4年生に関して、就職先の業界や企業規模の考え方別に、採用面接の時期についてみると<sup>26</sup>、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者では、「最初に受けた採用面接の時期」がより早い時期であった者の割合が比較的高い一方で、「採用面接のピーク」ならびに「最後に受けた採用面接の時期」が「平成27年8月」により集中している状況にあることがうかがえる（図表4-4-5）。また、「業界よりも、中堅・中小企業であることを優先する」と回答した者では、「採用面接のピーク」について「平成27年5月」であったとの回答割合が最も高く、他の者との違いが見られる。

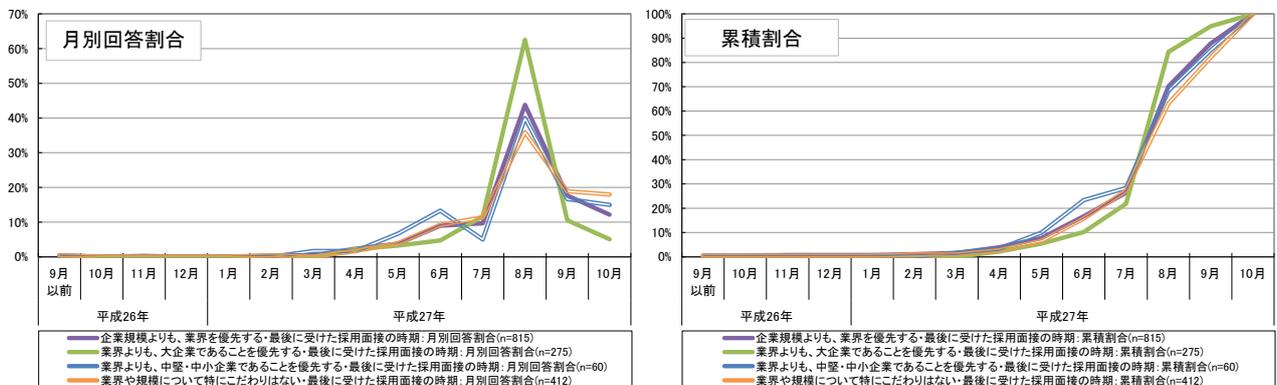
図表4-4-5 大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、採用面接の実施時期  
 <最初に受けた採用面接の時期>



#### <採用面接のピーク>



#### <最後に受けた採用面接の時期>

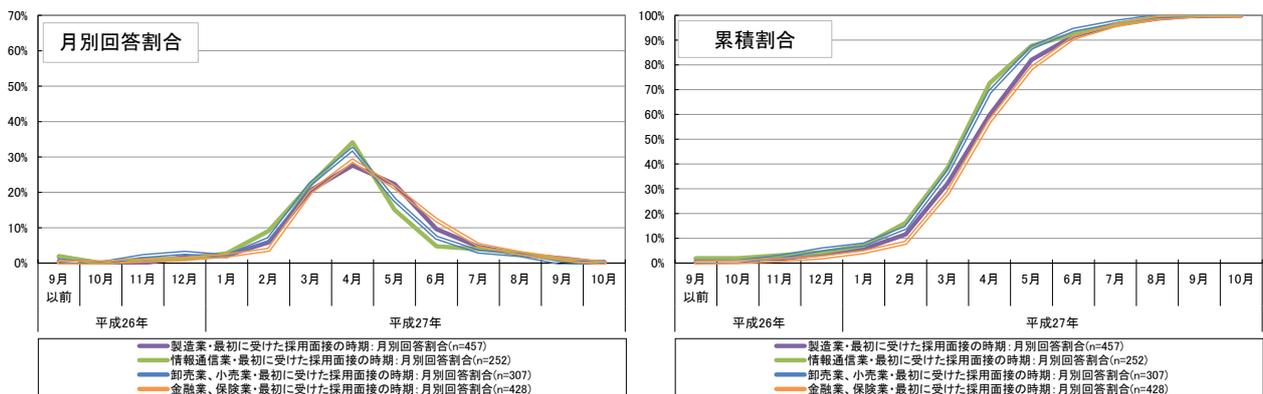


<sup>26</sup> 就職先の業界や企業規模の考え方に関して、「業界よりも、ベンチャー企業であることを優先する」と回答した者については、集計対象の度数が非常に少ないことから、ここでは集計の対象外とした。

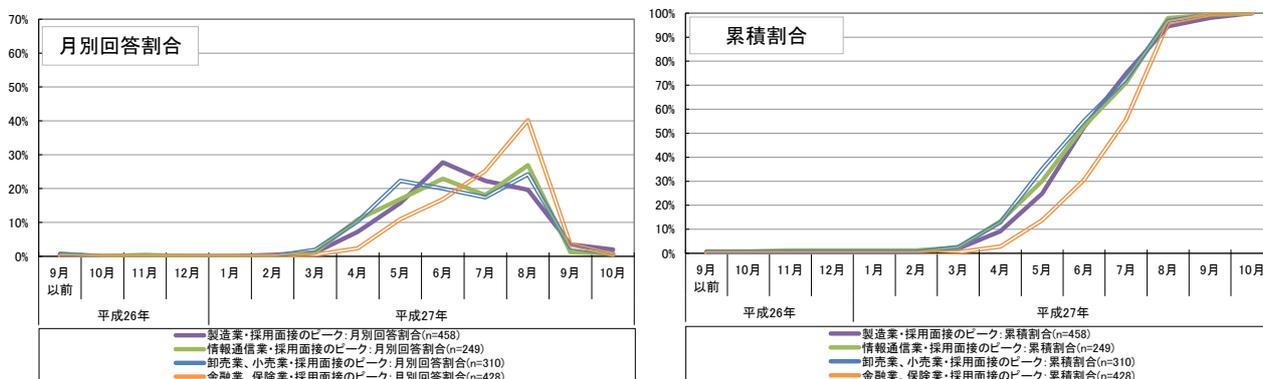
#### ④大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、採用面接の実施時期

大学4年生に関して、志望していた（希望している）就職先の業界別に、採用面接の時期についてみると<sup>27</sup>、「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業界に関して、「情報通信業」や「卸売業、小売業」を志望していた（希望している）者では「最初に受けた採用面接の時期」「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」ともにより早い時期であった者の割合が高い傾向があり、他方で、「金融業、保険業」を志望していた（希望している）者については、それぞれより遅い時期であった者の割合が高いことがうかがえる（図表4-4-6）。

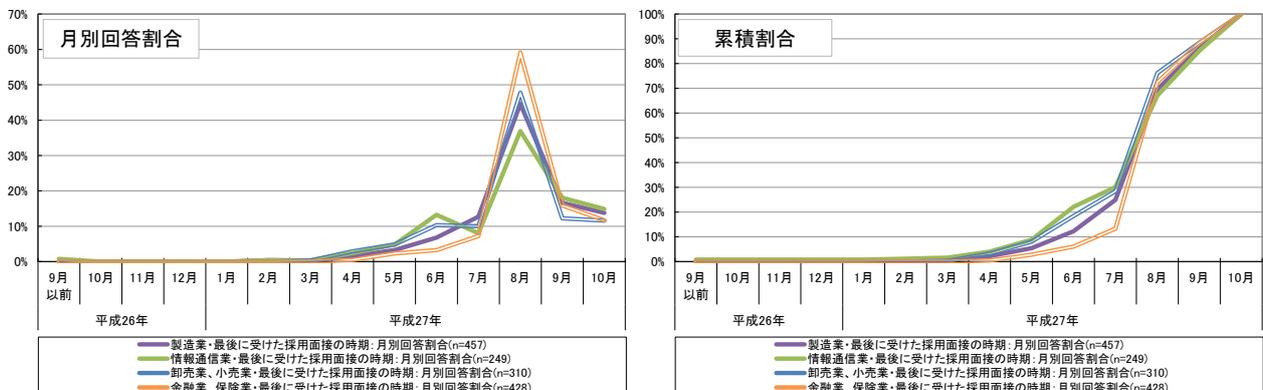
図表 4-4-6 大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、採用面接の実施時期  
 <最初に受けた採用面接の時期>



#### <採用面接のピーク>



#### <最後に受けた採用面接の時期>



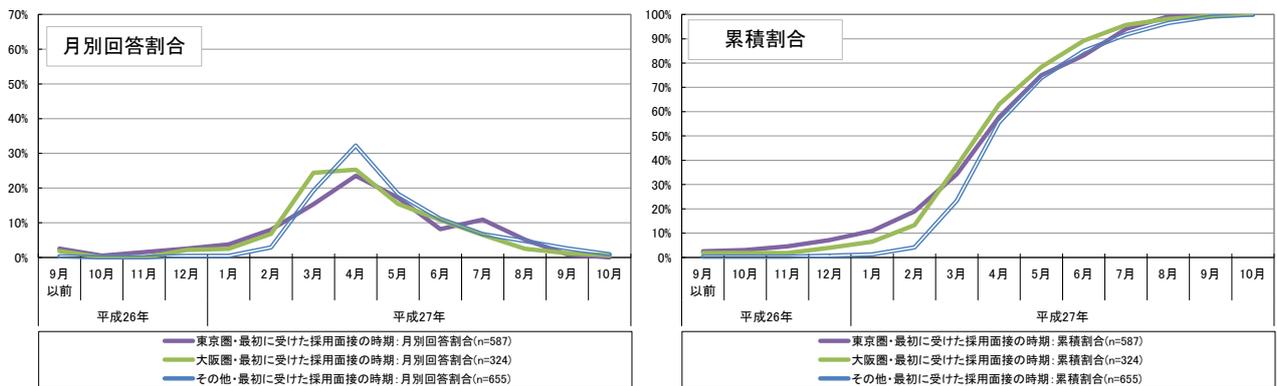
<sup>27</sup> 大学4年生に関して、複数回答による設問で回答割合が比較的高かった（回答件数が比較的多かった）「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業種について集計した。なお、複数回答による設問に基づく分類であるため、例えば、「製造業」と「情報通信業」の両方を志望していた学生がいた場合に、その者は両方の分類の集計に含まれている点には留意されたい。

⑤大学4年生の大学の所在地域別、採用面接の実施時期

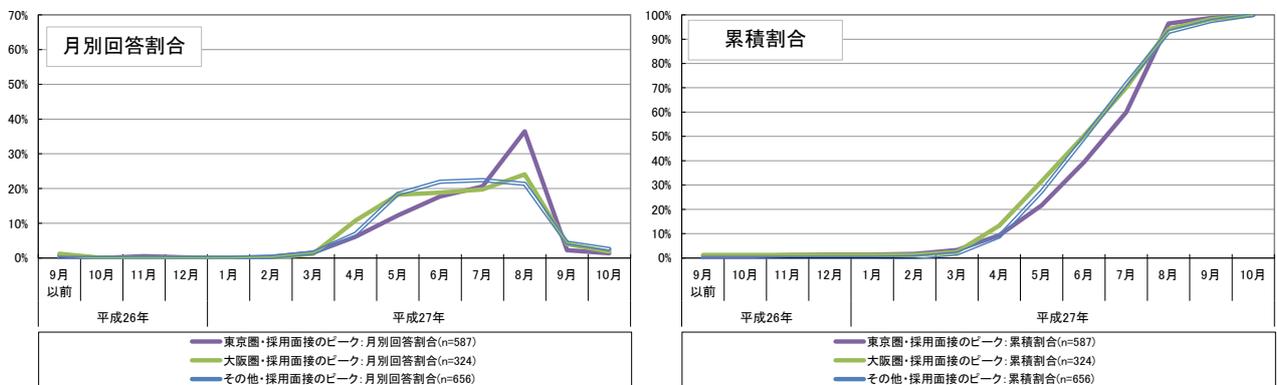
大学4年生に関して、大学の所在地域別に採用面接の時期についてみると、「東京圏」や「大阪圏」の学生のほうが、「その他」の地域の学生と比較して、「最初に受けた採用面接の時期」がより早い時期であった者の割合が高いことがうかがえる（図表4-4-7）。

他方で、「採用面接のピーク」については、「東京圏」の学生において特に「平成27年8月」の回答割合が高くなっており、「大阪圏」「その他」の地域の学生に比べてより遅い時期であったと回答した者の割合が高くなっている。

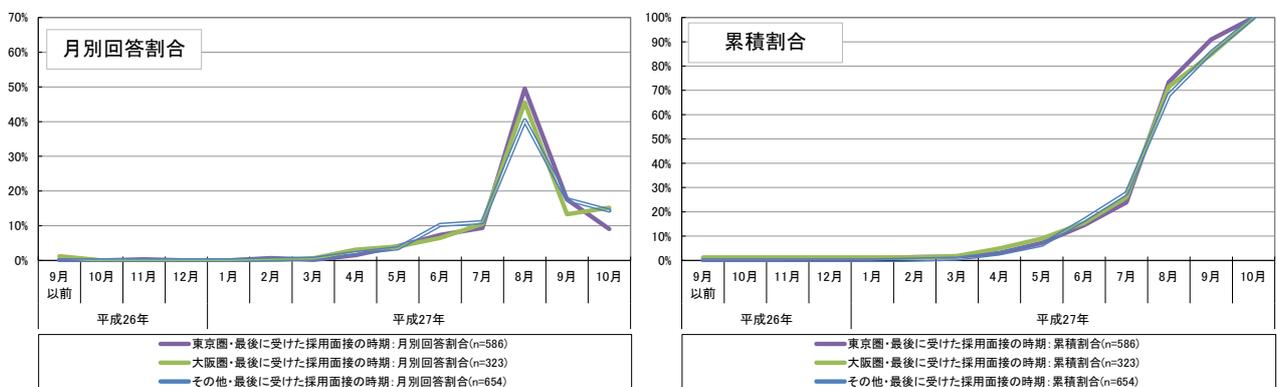
図表 4-4-7 大学4年生の大学の所在地域別、採用面接の実施時期  
 <最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



<最後に受けた採用面接の時期>

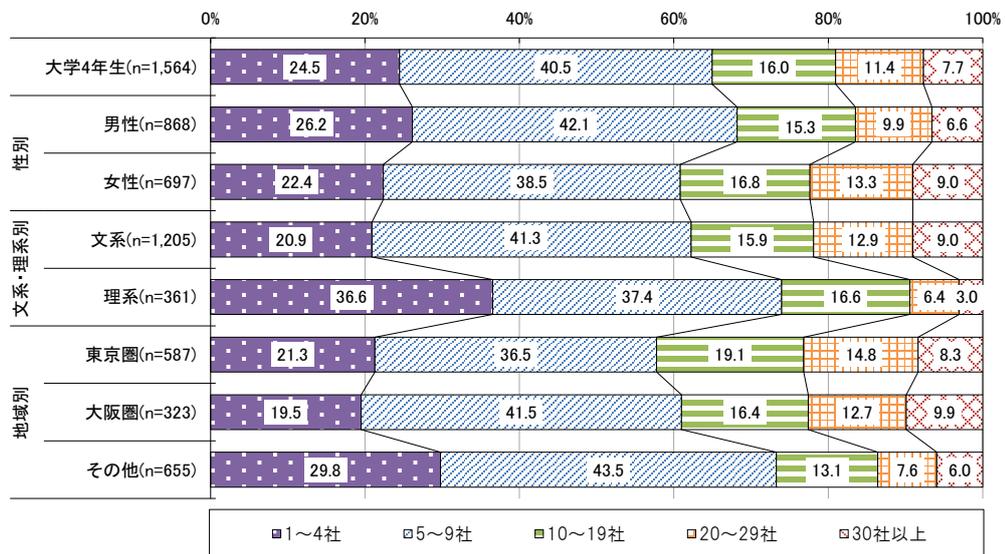


### ⑥採用面接を受けた企業数

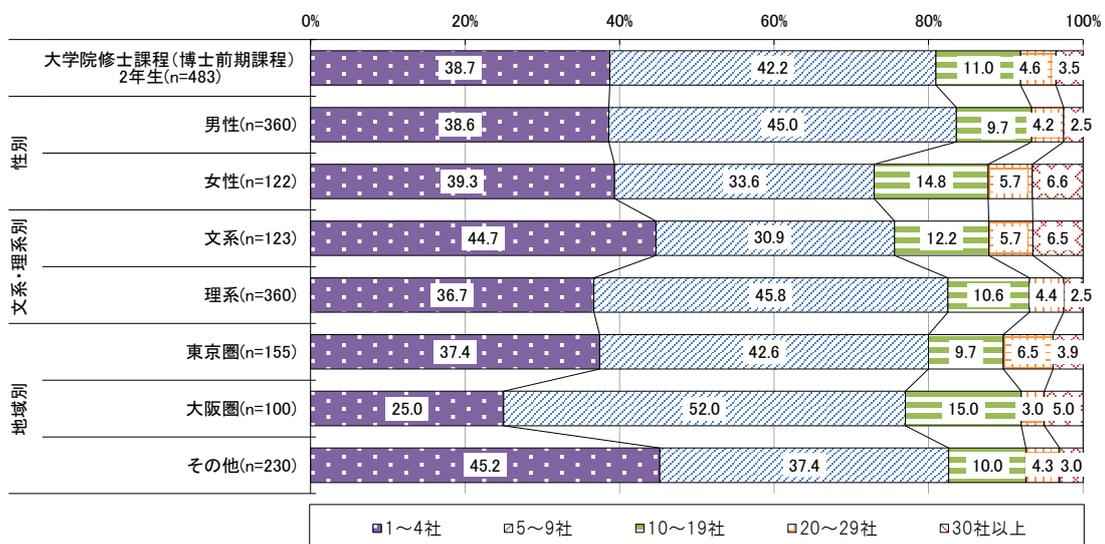
採用面接の実施状況として、合計で何社の企業の採用面接を受けたかをたずねたところ、大学4年生について、「5～9社」に該当する者が40.5%となっている（図表4-4-8）。また、20社以上の者は19.1%となっている。属性別にみると、男性よりも女性のほうが、理系よりも文系のほうが、地域別には東京圏や大阪圏の者のほうが、採用面接を受けた企業数が比較的多い傾向にあることがうかがえる。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生についてみると、「1～4社」「5～9社」に該当する者がそれぞれ38.7%、42.2%となっており、20社以上の者は8.1%となっている（図表4-4-9）。属性別にみると、10社以上と回答した割合について、男性よりも女性のほうが、また、理系よりも文系のほうが、割合が高くなっている。なお、文系の学生については、「1～4社」に該当する者の割合も比較的高く、分散がより大きいことがうかがえる。

図表 4-4-8 大学4年生、採用面接を受けた企業数



図表 4-4-9 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、採用面接を受けた企業数



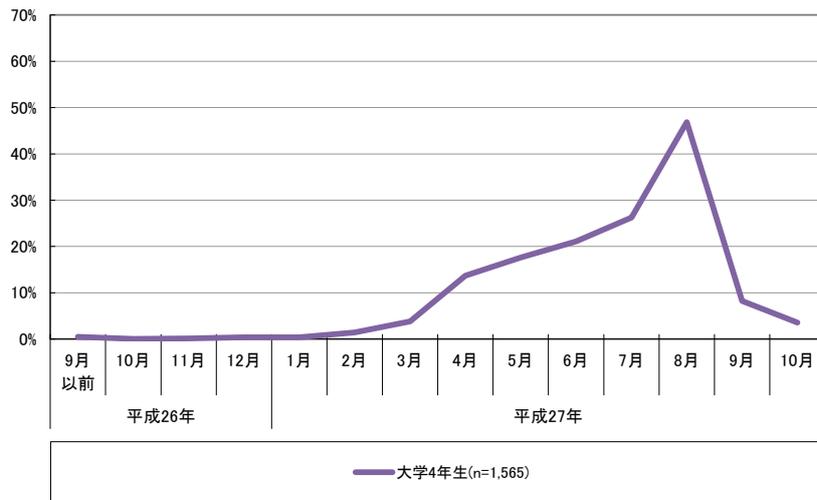
## (5) 第1志望の企業の採用面接

### ① 第1志望の企業の採用面接時期

採用面接の実施時期に関して、第1志望の企業の採用面接がどの時期に行われたかについてたずねたところ、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「平成27年8月」の回答割合が最も高くなっている（各46.8%、46.1%）（図表4-5-1、図表4-5-2）。

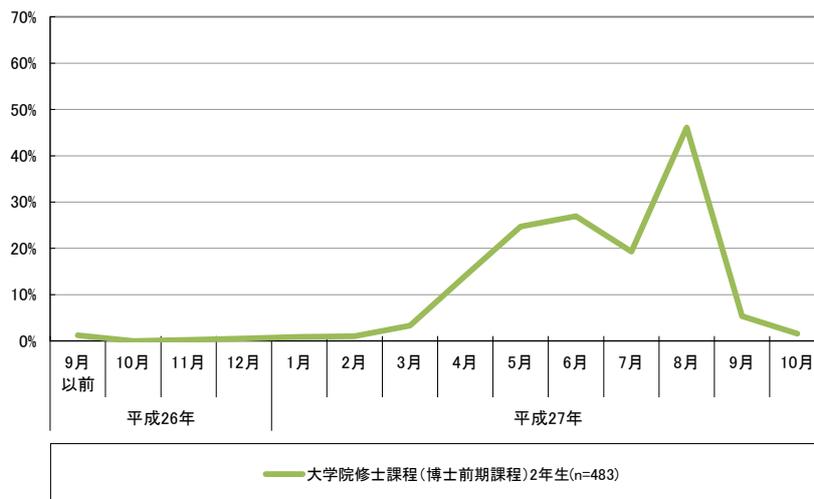
なお、大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、平成27年5月・6月の時期に行われたとの回答も比較的高くなっている。

図表 4-5-1 大学4年生、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）



	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.5%	0.1%	0.1%	0.4%	0.4%	1.5%	3.8%	13.7%	17.6%	21.1%	26.2%	46.8%	8.2%	3.6%

図表 4-5-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）



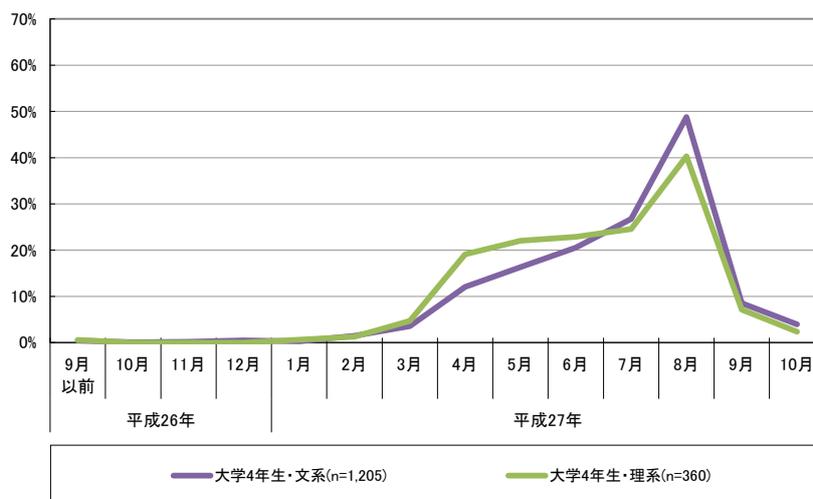
	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.2%	0.0%	0.2%	0.6%	0.9%	1.1%	3.3%	14.1%	24.7%	26.9%	19.3%	46.1%	5.3%	1.6%

## ②文系・理系別、第1志望の企業の採用面接時期

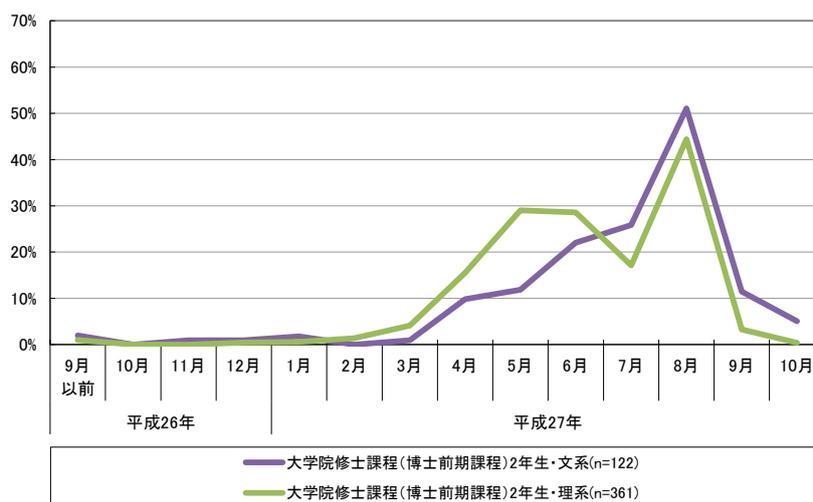
第1志望の企業の採用面接の時期について文系・理系別にみると、大学4年生について、「平成27年8月」の回答割合が最も高いという点は共通しているが、理系の学生の方が文系の学生に比べて早い時期に第1志望の企業の採用面接が実施されていたことがうかがえる（図表4-5-3）。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生についても同様の傾向があることが見て取れ、理系の場合には平成27年5月・6月の時期を中心に、より早い段階で第1志望の企業の採用面接が行われていた割合が高いことが把握できる（図表4-5-4）。

図表 4-5-3 大学4年生の文系・理系別、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）



図表 4-5-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）

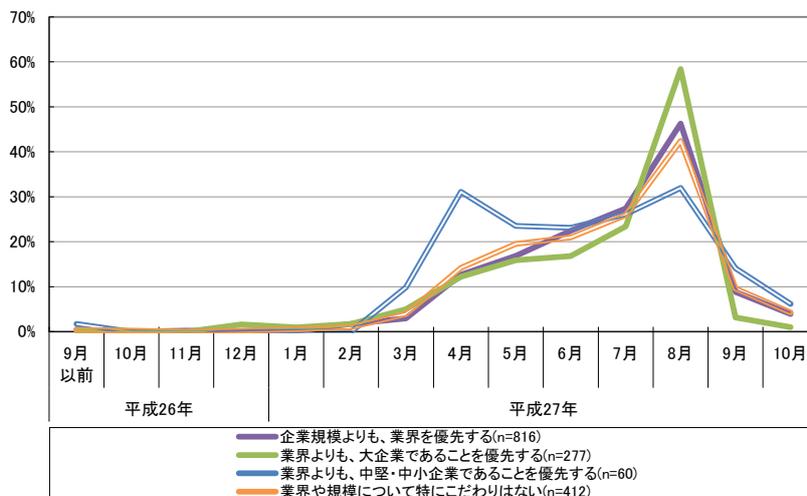


### ③大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、第1志望の企業の採用面接時期

大学4年生に関して、就職先の業界や企業規模の考え方別に、第1志望の企業の採用面接がどの時期に行われたかについてみると<sup>28</sup>、「業界よりも、中堅・中小企業であることを優先する」と回答した者では、「平成27年4月」の回答割合が3割以上となっており、「平成27年8月」と同程度となっている（図表4-5-5）。

また、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者では、第1志望の企業の採用面接の時期について「平成27年8月」に回答がより集中している状況にあることがわかる。

図表 4-5-5 大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）

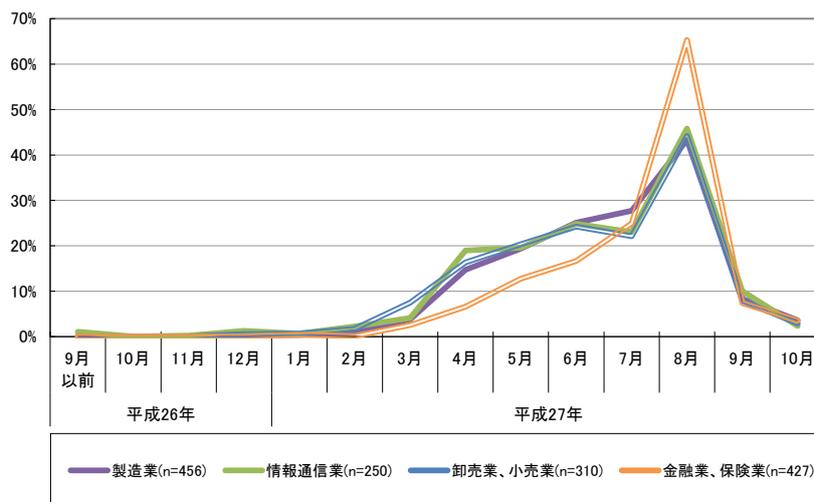


<sup>28</sup> 就職先の業界や企業規模の考え方に関して、「業界よりも、ベンチャー企業であることを優先する」と回答した者については、集計対象の度数が非常に少ないことから、ここでは集計の対象外とした。

④大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、第1志望の企業の採用面接時期

大学4年生に関して、志望していた（希望している）就職先の業界別に、第1志望の企業の採用面接がどの時期に行われたかについてみると<sup>29</sup>、「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業界に関して、特に「金融業、保険業」については「平成27年8月」に回答がより集中している状況にあることがわかる（図表4-5-6）。

図表4-5-6 大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）

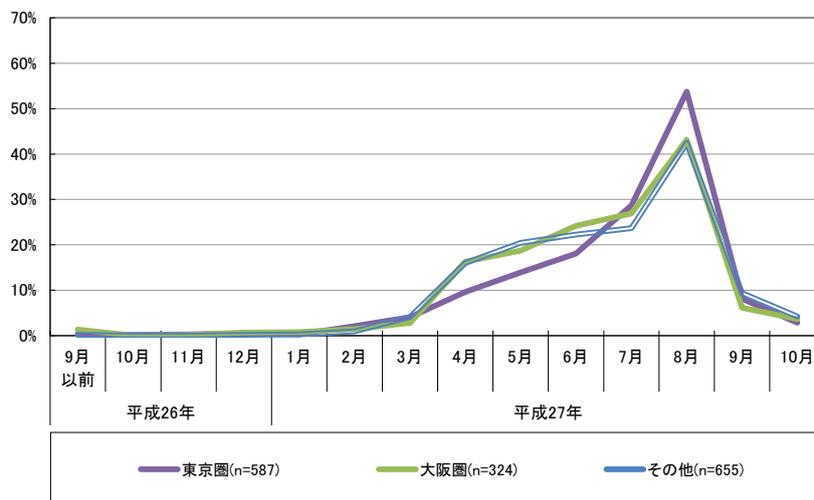


<sup>29</sup> 大学4年生に関して、複数回答による設問で回答割合が比較的高かった（回答件数が比較的多かった）「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業種について集計した。なお、複数回答による設問に基づく分類であるため、例えば、「製造業」と「情報通信業」の両方を志望していた学生がいた場合に、その者は両方の分類の集計に含まれている点には留意されたい。

⑤大学4年生の大学の所在地域別、第1志望の企業の採用面接時期

大学4年生に関して、大学の所在地域別に第1志望の企業の採用面接がどの時期に行われたかについてみると、特に「東京圏」の学生について、「平成27年8月」に回答がより集中している状況にあることがわかる（図表4-5-7）。

図表4-5-7 大学4年生の大学の所在地域別、第1志望の企業の採用面接時期（複数回答）



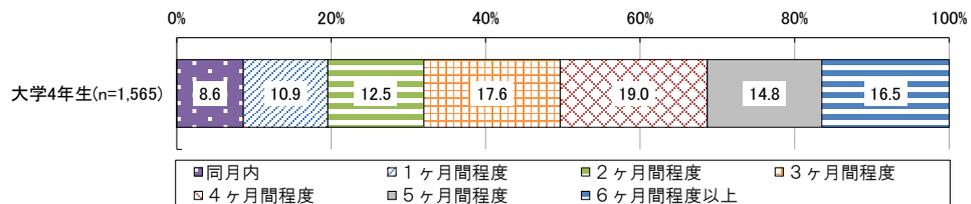
## (6) 採用面接の実施期間

### ①最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

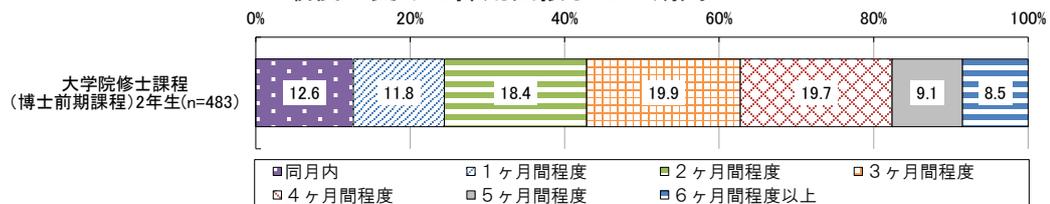
採用面接の時期・期間について、「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間について集計すると、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生ともに、「3ヶ月間程度<sup>30</sup>」もしくは「4ヶ月間程度」の割合が高くなっている（図表4-6-1、図表4-6-2）。

なお、大学院修士課程（博士前期課程）2年生と比較して、大学4年生のほうが、期間が長い者の割合が高くなっている。

図表 4-6-1 大学4年生、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



図表 4-6-2 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



<sup>30</sup> ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が4月、「最後に受けた採用面接の時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

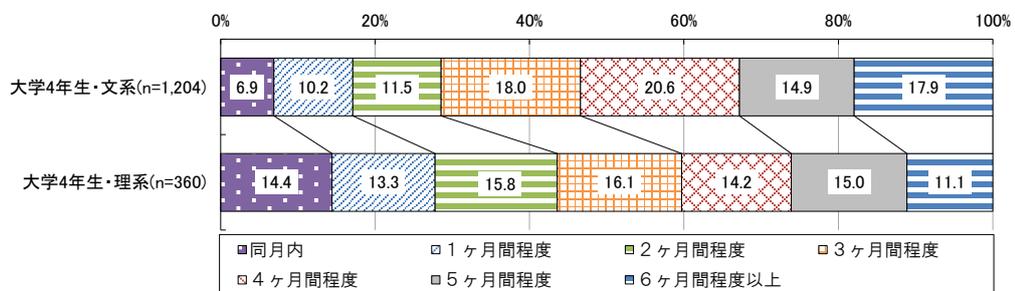
②文系・理系別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間について文系・理系別にみると、大学4年生については、理系の学生よりも文系の学生のほうが、期間が長い者の割合が高くなっている（図表 4-6-3）。

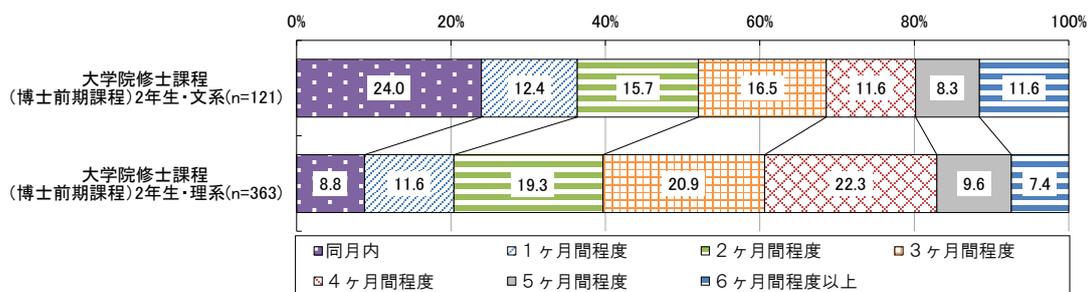
大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、理系の学生において「4ヶ月間程度<sup>31</sup>」の割合が最も高いのに対して、文系の学生では「同月内」の割合が最も高くなっており、状況に差異があることがわかる（図表 4-6-4）。

なお、これらの違いについては、図表 3-4-5、図表 3-4-7 で示した「就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった」との回答傾向の文系・理系別の違いとも対応関係にあることがうかがえる<sup>32</sup>。

図表 4-6-3 大学4年生の文系・理系別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



図表 4-6-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



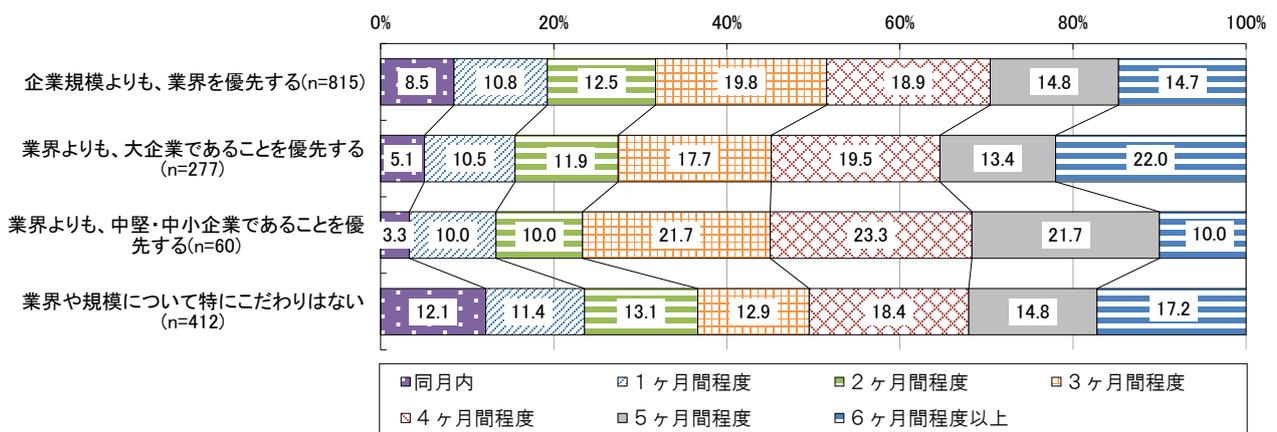
<sup>31</sup> ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が4月、「最後に受けた採用面接の時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

<sup>32</sup> このほか、図表等には示していないが、「最初に受けた採用面接の時期」と「最後に受けた採用面接の時期」の回答の組み合わせについて把握したところ、大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系の学生については、最初の採用面接・最後の採用面接ともに平成27年8月であった場合が最も多く、それ以外の者では、最初の採用面接を平成27年4月に受け、最後の面接を平成27年8月に受けたというパターンが最も多くなっていた。

③大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

大学4年生に関して、就職先の業界や企業規模の考え方別に、「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間についてみると<sup>33</sup>、「6ヶ月間程度以上<sup>34</sup>」の割合は、「業界よりも、大企業であることを優先する」と回答した者で22.0%と、他の者と比較して高くなっている（図表4-6-5）。

図表4-6-5 大学4年生の業界や企業規模についての考え方別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



<sup>33</sup> 就職先の業界や企業規模の考え方に関して、「業界よりも、ベンチャー企業であることを優先する」と回答した者については、集計対象の度数が非常に少ないことから、ここでは集計の対象外とした。

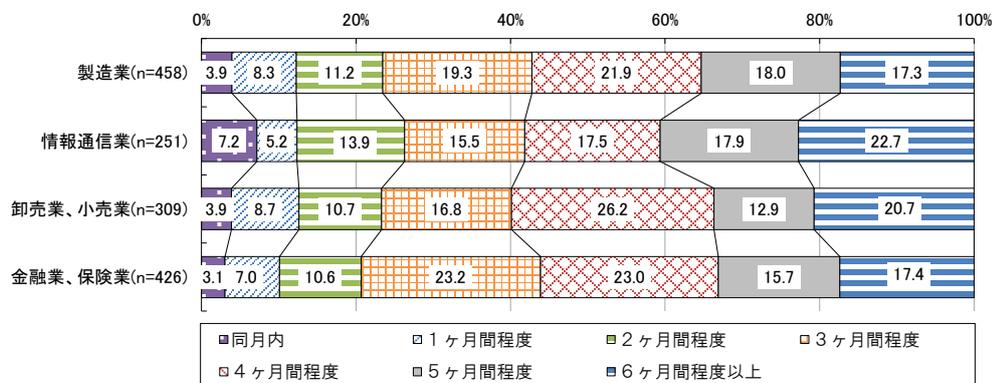
<sup>34</sup> ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が4月、「最後に受けた採用面接の時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

④大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

大学4年生に関して、志望していた（希望している）就職先の業界別に、「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間についてみると<sup>35</sup>、「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業界に関して、「情報通信業」を志望していた（希望している）者では、「5ヶ月間程度<sup>36</sup>」以上の期間であった者が40.6%と比較的割合が高くなっている（図表4-6-6）。

他方で、「情報通信業」を志望していた（希望している）者では、「同月内」の割合も高くなっており、傾向は一樣ではないことがうかがえる。

図表 4-6-6 大学4年生の志望していた（希望している）就職先の業界別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



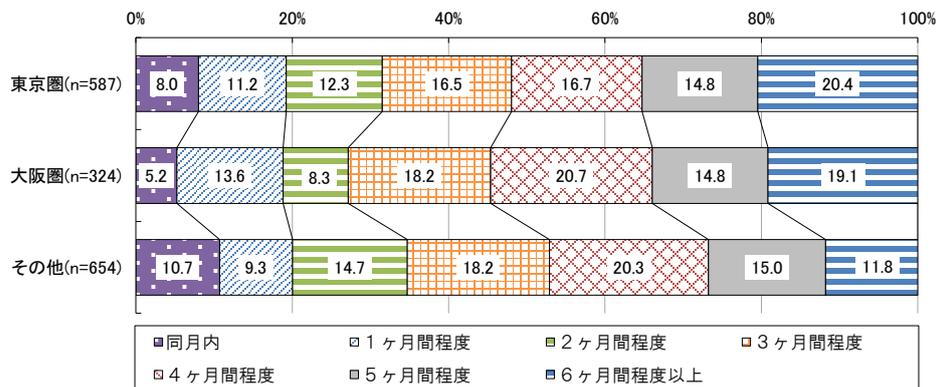
<sup>35</sup> 大学4年生に関して、複数回答による設問で回答割合が比較的高かった（回答件数が比較的多かった）「製造業」「情報通信業」「卸売業、小売業」「金融業、保険業」の4業種について集計した。なお、複数回答による設問に基づく分類であるため、例えば、「製造業」と「情報通信業」の両方を志望していた学生がいた場合に、その者は両方の分類の集計に含まれている点には留意されたい。

<sup>36</sup> ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が4月、「最後に受けた採用面接の時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

⑤大学4年生の大学の所在地域別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

大学4年生に関して、大学の所在地域別に「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間についてみると、「その他」の地域の学生に比べて、「東京圏」や「大阪圏」の学生のほうが「6ヶ月間程度以上<sup>37)</sup>」の割合が高くなっている（図表4-6-7）。

図表4-6-7 大学4年生の大学の所在地域別、最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



<sup>37)</sup> ここでの集計において、「1ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が4月、「最後に受けた採用面接の時期」が5月というように、両者の差が1ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。